ALLEN&HEATH



Reference Guide

Firmware V1.0.1

1.重要なお知らせ 5
2.はじめに 6
3.ファームウェアの更新 7
4.操作概要 8
4.1 SQ のコントロール 8
4.2 チャンネルタイプ 9
4.3 スクリーン上のパラメーター、メニュー、ポップアップ 9
4.4 スクリーン上のタイトルバー 10
4.5 ホームスクリーン 11
4.6 Diagnostics 11
4.7 基本的なワークフロー 12
4.8 スクリーンリファレンス 13
5.接続 14
5.1 ローカルインプット 14
5.2 ローカルアウトプット 14
5.3 SLink 15
5.4 USB 15
5.5 Network 15
5.6 I/O Port 15
5.7 Footswitch 15
6.I/Oパッチ 16
6.1 Local 17
6.2 SLink 17
6.3 ME systems 17
6.4 USB 18
6.5 I/O Port 18
7.プロセッシング 19
7.1 Preamp 20
7.2 Gate (input channels) 22
7.3 Insert 23
7.4 GEQ (mix channels) 25
7.5 HPF and PEQ 26

7.6 Compressor 27
8ルーティング 29
8.1 Direct out 30
8.2 ミックスセンドとバランス設定 31
8.3 DCA/Mute Groups 32
8.4 センドレベルとミックスアサイン 33
8.4 ミックスからマトリックスアサイン 33
9.メーター 34
9.1 PAFL LED Meter 34
9.2 Input/FX/Output Meters 34
9.3 RTA 35
9.4 その他メーター 35
9.5 クロマチック・チャンネルメーター 36
10. FX Engines 37
10.1 FX バスとリターン 37
10.2 ユニットロードとプリセット 38
10.3 パラメーター調整 38
10.4 他のソースからFXへのセンド 39
10.5 FX レベルとPEQ 40
11.ショー/シーンのセーブとリコール 41
11.1 シーンマネジャー 42
11.2 グローバルフィルター 43
11.3 セーフ 43
11.4 ショーマネジャー (USB) 44
12.設定 45
12.1 ストリップアサイン 45
12.2 インプット/ミックス ステレオアサイン 46
12.3 ミックスコンフィグレーション 47
12.4 ソフトキー/ソフトロータリー 48
12.5 フットスイッチ 50
12.6 サーフェイスプリファレンス 51
12.7 PAFL 52

12.8 Audio Sync と AES サンプルレート 53
12.9 トークバック設定 54
12.10 シグナルジェネレーター 55
12.11 ネットワーク設定 56
13.SQ-DriveとUSB-B 57
13.1 SQ-Drive レコーディングとプレイバック 58
13.2 SQ-Drive マルチトラックレコーディングとプレイバック 60
13.3 コンピューター接続 62
14.MIDI and DAW Control 63
14.1 MIDIチャンネルとMMC 63
14.2 MIDI フェーダーストリップ 64
14.3 DAW コントロール 64
15.ミックス/システムリセット 65
15.1 リセットミックス設定 65
15.2 システムリセット 66
15.3 フェーダーカリブレーション 66
16.ブロック図面 67
17.仕様 69
18.保証について 74

1. 重要なお知らせ

安全性

SQの電源を入れる前に、付属の安全に関する説明書（AP9240 / CL1-1）をお読みください。 オペレーター、テクニカル・クルー、パフォーマーの安全ために、すべての指示に従い、これらの文書、機器に記載されているすべての警告に注意してください。

換気

使用時はSQの側面や通気口をふさがないでください。 特に冷却ファンには十分な換気が必要です。

サポート

SQのさらなるサポートについては、support.allen-heath.com にアクセスするか、販売代理店にお問い合わせください。

登録

アップデート、最新のファームウェア、SQに関する新しいリリースについては、www.allen-heath.com/registersq でSQを登録してください。

ファームウェアのアップデートとアプリケーション

ファームウェア、リリースノート、およびリファレンスガイドの最新バージョンを入手するには、 www.allen-heath.com を参照してください。

ファームウェアのリリースには重要なアップデートと使用に関する改善が含まれており、最新のDEEPプロセッシングへのアクセスにも必要です。

SQのファームウェアとアプリのバージョンには、同じメジャーなリリース番号が必要です。 これは、各リリース番号の最初の2桁を意味します。

例えば 1.0.3 and 1.0.5 = 相互性あり
1.0.3 and 1.1.3 = 相互性なし

2. はじめに

SQリファレンスガイドへようこそ

コンパクトで信頼性が高く高品質のオーディオミキシングとプロセッシングが必要な用途に設計され、Allen&Heath XCVIコアで構築されたSQシリーズのデジタルミキサーは、96kHzの可変ビット深度処理と超低レイテンシーを特長とします。

SQモデルを単独で使用することも、リモートオーディオユニットとオプションカードで拡張することもできます。また、追加のプロセッシングオプションを使用してカスタマイズおよびアップグレードすることもできます。

同じプロセッシングコアを持つ2つのモデルは同じミキシング機能を持っています。そのためこのガイドは一般化されています。 必要に応じて、それぞれのモデルが個別に説明されています。 違いは次のとおりです。

Model	Faders	Preamps	XLR Outputs	SoftKeys	SoftRotaries
SQ-5	16+master	16+talkback	12	8	0
SQ-6	24+master	24+talkback	14	16	4

3. ファームウェアの更新

1)新品またはフォーマットされたUSBドライブをSQの前面にあるSQドライブポートに挿入します。

2)「Utility」画面キーを押し、「USB Utility」を選択します。

3)「Status/Format」タブで、ウィンドウに「Ready」と表示されます。
そうでない場合は、正しいUSBモードであることを確認する必要があります。
[USB BモードとSQ ドライブモードを切り替えるには、 「I/O」画面キーを押し、ルーティングマトリックス上にある「USB」タブにタッチします。 USBソースボタンがグリッドで左上に表示され、これをタッチするとモードが切り替わります。ファームウェアを更新するには、ボタンに 「SQ-Drive」が表示されている必要があります。]

4)「Format」ボタンを押し、画面の指示に従ってドライブをフォーマットすると、すべてのデータがクリアされ、SQ-Driveのフォルダーの構造が設定されます。

5)フォーマットが完了したら、ドライブを取り外して、WindowsまたはMacコンピュータに接続します。

6)www.allen-heath.com から最新バージョンのファームウェアをダウンロードし、更新するSQモデルの正しいバージョンを選択します。

7)ダウンロードしたZIPファイルを解凍して展開し、USBドライブのルートにファームウェアファイル（.binの接尾辞が付いています）をコピーします。フォルダーに入れないでください。USBドライブ内にファームウェアファイルが1つしかないことを確認してください。

8) ドライブを安全に取り出し、SQに再挿入します。

9) 「Utility」スクリーンキーを押し、「USB Utility」を選択し、「Firmware Update」タブにタッチします。

10) この画面には、USBドライブにあるファームウェアのバージョンが表示されます。「Update」ボタンをタップして更新処理を開始します。

11) 画面の指示に従って、SQを再起動してファームウェアの更新を完了するように求められたら、「Reset」ボタンをタッチします。

12) ホーム画面に表示されているファームウェアのバージョンを確認するか、「Utility」画面のキーを押して「General」を選択します。ファームウェアのバージョンが「Diagnostics」タブに表示されます。

4. 操作概要

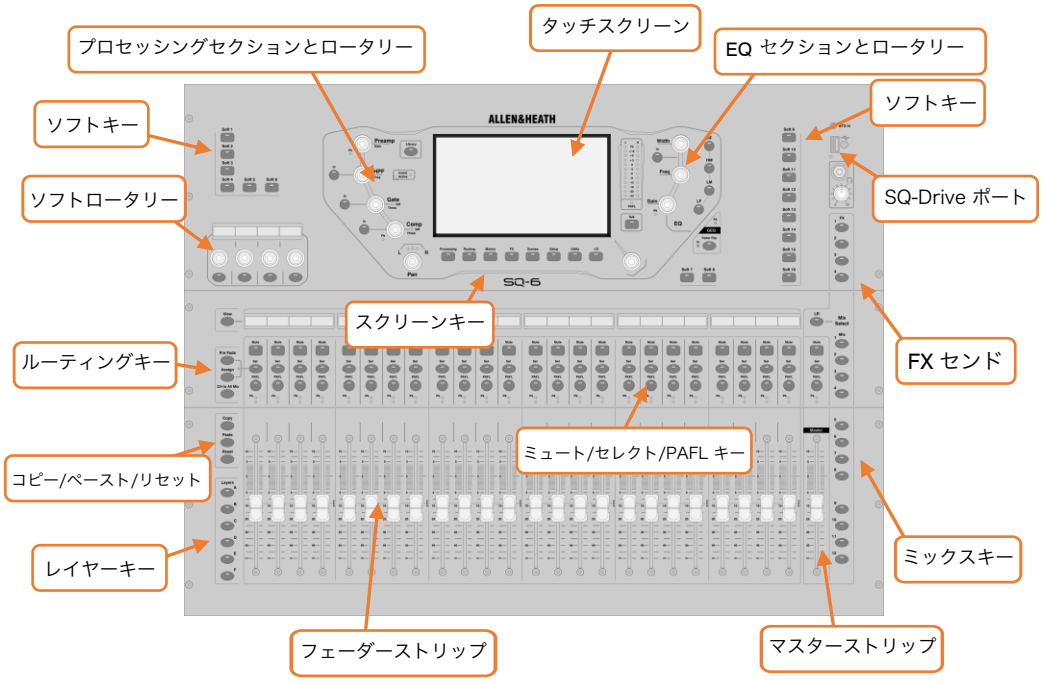
4.1 SQ のコントロール

Keys – すべてのキーにはラベルが付けられており、キーが有効なときに表示されます。ユーザーが割り当てることができる「SoftKeys」以外の特定の機能を実行します。

Faders – 割り当て可能なフェーダーストリップが6つのレイヤーで構成されています。すべてのインプットとFXリターンに対して、フェーダーはこのチャンネルのセンドレベルを選択したミックスにコントロールできます。 FXセンド、ミックス（Aux / Group）、マトリックスフェーダーはマスターレベルをコントロールします。 DCAフェーダーはDCAグループのレベルをコントロールし、MIDIフェーダーはMIDIレベルメッセージを送信します。すべてのフェーダーストリップは、GEQの「Fader Flip」機能としても使用できます。

Rotary Encoders (Rotaries) – 有効なときに点灯し、さまざまなパラメーターの調整に使用されます。大部分は現在選択されているチャンネルまたはミックスのパラメーター用ですが、1つはタッチスクリーン用です。 SQ-6にはさらに4つの「SoftRotaries」があり、ユーザーの好みに割り当てることができます。

Touchscreen – タッチスクリーンは、画面上のボタンとメニューを使用してユーザー操作を簡単にします。ロータリーを使用して、パラメーターを画面上で選択して調整することもできます。パラメーターが選択されると、画面上で黄色に変わり、使用可能なロータリーが点灯します。



4.2 チャンネルタイプ

Input channels – 48個の入力チャンネル。 ローカル、リモート、またはデジタル入力から、任意の出力にミックスされます。

Main LR – メインミックス。 ポストフェーダーモードとオプションすべてはこのミックスに従います。

Mix channels – Auxまたはグループとして使用できる12個のステレオミックスチャンネル。

FX sends – FXエンジン用の4つのFXセンドバスが含まれています。

FX Returns – FXエンジン用の8ステレオ専用リターンチャンネル。

Matrix – 3つのステレオマトリックスバスで、他のバスの組み合わせで構成することができます。

DCA – 1つのフェーダーで複数のチャンネルのレベルを調整するための8つの「Digitally Controlled Amplifier」チャンネル。

MIDI – MIDI over USBとMIDI over TCP / IPを使用してMIDIコントロールデーターを送る32チャンネル。

4.3 スクリーン上のパラメーター、メニュー、ポップアップ

Adjustable parameters and selections – 黒の背景に白いテキストとして表示されます。 値はテキストとバーの両方で表示されます。

Libraries – 利用可能な場合は、「**Library**」キーを押すとライブラリーウィンドウが表示され、選択したチャンネル/プロセッシングまたはFXユニットの設定を保存またはリコールすることができます。 プリセットはファクトリーライブラリーに保存され、ユーザーライブラリーには独自の設定が保存されます。 ライブラリーはまた、プリセットのロードによってFXユニットをロードするためにも使用されます。

Menu lists – リストが少ない場合は、オプションをタッチして選択します。 リストが多い場合は、オプションを強調表示し、ロータリーを使用して利用可能なすべてのオプションをスクロールすることによってナビゲートすることができます。 ほとんどのポップアップメニューの右上に「**X**」が表示されます。

Keyboard – 名前または番号を入力するときにオンスクリーンキーボードが表示されます。キャップロックは、「^」（シフト）を長押しします。「Apply」または「OK」をタップして名前または番号を設定します。 キーボードの右上にある「X」をタッチして閉じます。



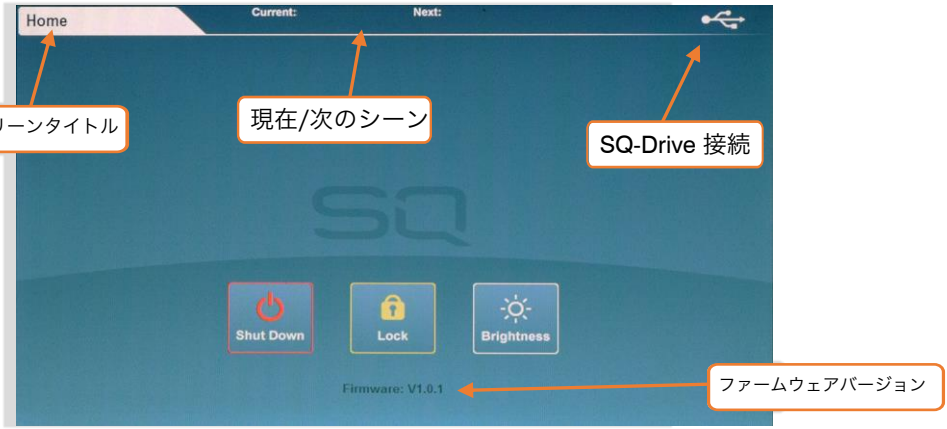
Confirmation – 特定の操作には確認が必要です。 変更を適用またはキャンセルするオプションがある場合、ボタンはアクティブなオンスクリーンとして表示されます。 場合によっては、より多くの情報と選択肢を含むポップアップが表示されます。

4.4 スクリーン上のタイトルバー

タイトルバーは常に画面の上部に表示され、左から右に情報が表示されます。

- 現在選択されているウィンドウのタイトル。
- 現在ロードされているシーン。
- 次のシーンのリコール。
- SLINKポート記号（SLINK接続が利用可能な場合）。
- エラーが検出された赤い十字線（これをタップすると、検出されたエラーがポップアップウィンドウに表示されます）。
- USBデバイスがSQ-Driveポートに接続されている場合のUSBシンボルが表示されます。これは、オーディオの録音または再生にSQ-Driveを使用する場合、トランスポート記号に置き換えられます。

4.5 ホームスクリーン

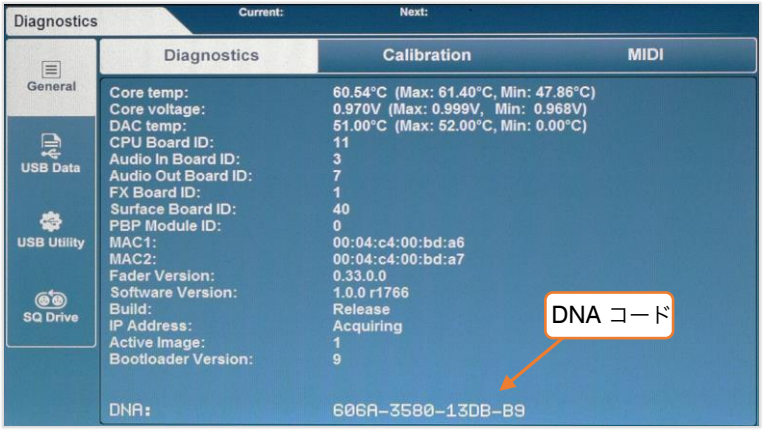


SQの電源を入れるときに最初に表示される画面です。 また、チャンネルが選択されておらず、他の画面がアクティブでない場合にも表示されます。 ファームウェアのバージョンは3つのボタンの下に表示されます。

'**Shut Down**' – タッチしてSQをシャットダウンします。
'**Lock**' – タッチしてSQサーフェイスをロックし、偶発的なコントロールを防止します。
'**Brightness**' – タッチしてSQ明るさ設定に直接移動します。

4.6 Diagnostics

SQの情報を表示するには、「**Utilities**」画面キーを押し、「**General**」タブをタップします。 これは登録に必要な固有のDNAコードを含むSQに関する重要な情報を表示します。



・「LR」、「Mix」または「FX」キーを押して、選択したミックスのセンドレベルをフェーダーストリップに表示します。
レイヤーキーを使用してフェーダー用の6つのレイヤーを移動し、個々のレベルを調整します。
マスターストリップは、選択したミックス/ FXのマスターセンドレベルをコントロールします。

・「Sel」キーを押してストリップを選択します。コントロールを使用して、選択したストリップのパラメーターを調整します。

・選択したストリップのプロセッシングを表示するには、「Processing」画面へ移動します。
プロセッシング部分をタッチして詳細を表示し、画面上のパラメータをタッチし、ロータリーを使用して調整します。

・ミュートキーは、ストリップがミュートされているときに点灯します。デフォルトでは、PAFL（Pre / After Fade Listen）キーを使用すると、一度に1つのチャンネルをPAFLバス/ヘッドフォン出力に送ることができます。

・ミックスセンドをLRセンドレベルにしたがって「Post-Fade」に設定します。選択したミックスの「Pre-Fade」と「Post-Fade」の間でチャンネルを切り替えるには、「Pre Fade」キーを押しながら「Sel」キーを押します。
現在選択されているミックスからストリップを割り当てたり、割り当てを解除するには、「Assign」キーを押しながら「Sel」キーを使います。

・「CH to All Mix」キーを長押しすると、現在選択されているストリップのセンド・レベルがメインフェーダーストリップに表示されます。

・FXエンジンを表示および調整するには、「FX」画面キーを押します。「Library」キーを使用してFXのタイプとプリセットをリコールします- パラメーターを画面上で選択し、タッチスクリーンロータリーを使用して変更します。
FXバス1〜4はデフォルトでFXエンジン1〜4に送信されます。 FXリターンチャンネルは、ステレオ入力チャンネルと同じ方法でミックスにルーティングできます。

・「Copy」キーを押しながら、「In」キー、「Sel」キーまたは「Mix」キーを押して、パラメーターやセンドをコピーします。 「Paste」キーを押しながら「Sel」キーまたはMix

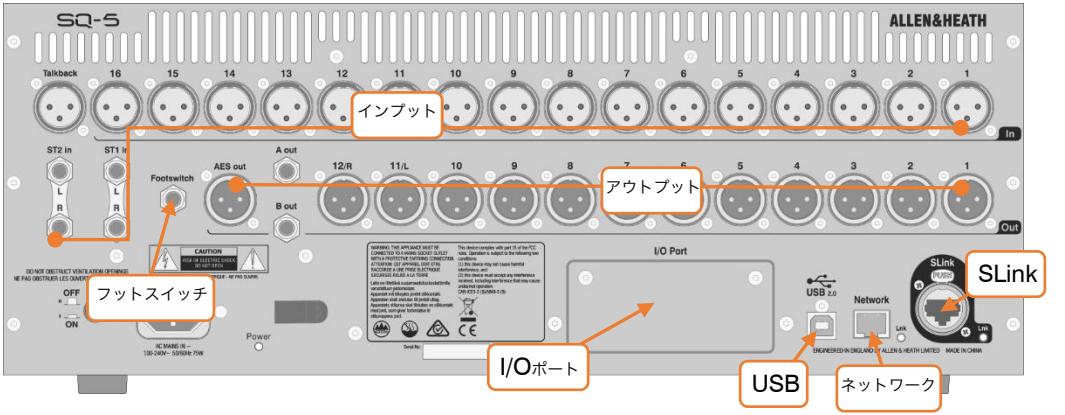
キーを押して、貼り付けるか、割り当てを別のチャンネルに送ります。 「Reset」キーを押しながら「In」キー、「Sel」キーまたは「Mix」キーを押してパラメーターをリセットします。

ⓘSQの初期状態に関する情報は、このガイドの「Mix/System Reset」のセクションに記載されています。

4.8 スクリーンリファレンス

Screen Key	Option 1/Left Tabs	Option 2/Top Tabs
Processing	Name	Bank/Processing View
	Preamp (input), Ext In (mix)	
	Gate (input), Insert (mix)	
	Insert (input), GEQ (mix)	
Routing	Name	Bank/Assign and Level View
	Direct Out/Group/Aux Snd/FX Snd	
	DCA/Mute Assign	
	Mix Sends	
	Matrix Sends	
Meters	Input Meters	N/A
	FX Meters	
	Output Meters	
	RTA	
	Channel Meters	
FX	FX Engines 1-8	Front/Back Panel
Scenes	Scene Manager	N/A
	Global Filter	N/A
	Safes	Inputs
		FX
		Mix
Setup	Audio	PAFL
		Talkback
		SigGen
		Audio Sync Opts
	Surface	Strip Assign
		Soft Controls
		Footswitch
		Surface Prefs
	Mixer Config	Input Stereo
		Mix Stereo
		Bus Config
	Network Setup	N/A
Utility	General	Diagnostics
		Calibration
		MIDI
	USB Data	N/A
	USB Utility	Status/Format
		Firmware Update
	SQ-Drive	Stereo
		Multitrack
I/O	Inputs	Onput sources/destinations
	Outputs	Output sources/destinations

5. 接続



5.1 ローカルインプット

Mono mic/line (XLR female) – 番号付きの、マイクまたはラインレベルのインプットです。

ゲイン、パッド、48Vファンタム電源はデジタルでコントロールされています。

Talkback (XLR female) – モノマイク/ライン入力と同じです。 トークバック用ですが、追加入力として使用することもできます。

ST1, ST2 (1/4" TRS jack) – ステレオペアとラベル付けされており、モノラインレベルのバランス入力としても使用できます。

ST3 (TRS Mini jack) – SQのサーフェイスにあり、ポータブルメディアプレーヤー、ラップトップタブレット、スマートフォンなどのラインレベルのソースで、標準のステレオミニジャックケーブルを使用して使用できます。

5.2 ローカルアウトプット

Mono line (XLR male) – ミックスまたはダイレクトアウトの番号付きラインレベル出力。デフォルト設定では、LRミックスは11と12に設定されています。

A/B mono line (1/4" TRS jack) – 2つの割り当て可能なラインレベルの出力端子です。

AES digital (XLR male) – ステレオデジタル出力はSQにクロック供給されます。 デジタル入力に接続に使用します。

Headphone (1/4" TRS jack) – SQの表面にあり、専用のレベルコントロールが付いています。 PAFLバスからの出力です。

5.3 SLink

Digital multichannel (Neutrik etherCON) – Allen&Heathリモートオーディオユニットを使用してSQを拡張できます。 dSnake、DX、およびgigaACEプロトコル間でモードを切り替えることができます。

ⓘSLinkは、1つの接続で複数のプロトコルをサポートしていません。

ⓘファームウェアV1.0.1は、セカンダリー（デイジーチェーン接続）ユニットの接続をサポートしていません。

ⓘサポートされている設定の一覧については、www.allen-heath.comを参照してください。

5.4 USB

SQ-Drive – SQのサーフェイスにあります。 USB「stick」ドライブ、またはポータブルHDD、SSDを接続するために使用できます。 データ、ファームウェアの更新、ステレオまたはマルチトラックのオーディオの録音と再生の保存とリコールに使用します。

USB-B – 内蔵の32x32オーディオおよびMIDIインターフェイスを使用時に、WindowsまたはMacコンピューターに接続できます。

ⓘ詳細については、SQ-DriveおよびUSB-Bセクションを参照してください。

5.5 Network

SQをワイヤレスルーター、アクセスポイント、またはローカルエリアネットワークに接続するために使用され、SQが制御データを送受信できるようにします。 Allen&Heath SQアプリ、およびMIDI over TCP / IP用です。

5.6 I/O Port

SQオプションカードの接続用に、Allen&Heathまたは他社製のプロトコルを使用して拡張と接続を可能にします。

5.7 Footswitch

シングルまたはデュアル、モーメンタリーまたはラッチングフットスイッチを接続し、ミュートやタップテンポなどの機能をコントロールします。

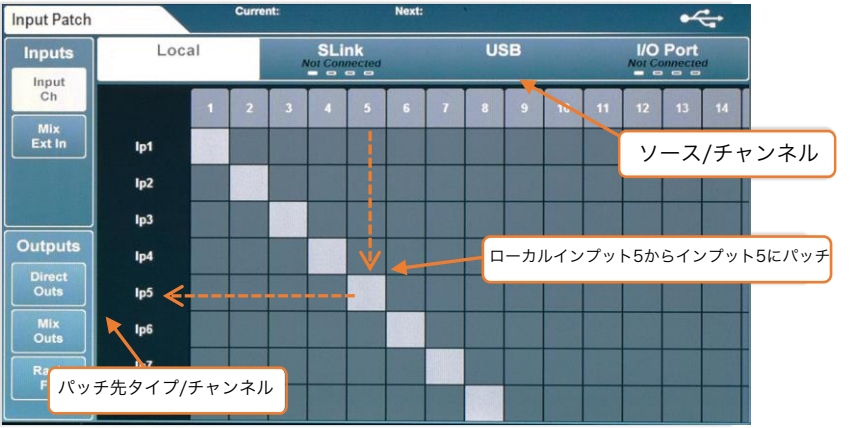
ⓘ詳細については、Footswitch Setupセクションを参照してください。

6. I/O パッチ

チャンネルをパッチするには、チャンネルプロセッシング画面のプリアンプセクションまたはI / O画面の2つの方法があります。 複数のチャネルにパッチを適用する場合は、I / Oパッチ画面を使用するのが最も簡単です。

「I / O」画面キーを押すと、パッチマトリックスが表示されます。

・左側のタブの1つをタップします。
「Input Ch」 = SQのチャンネルを入力します。
「Mix Ext In」 = 外部入力とミックスします。
「Direct Outs」 = 入力チャンネルのダイレクトアウトです。
「Mix Outs」 = すべてのミックス出力（LR、Aux、Group、Matrix）です。
「Rack FX」 = FXリターンです。
・入力をパッチすると、ソース（local/digital/USB）がマトリックスの最上部に表示され、SQ内のパッチ先が左側に表示されます。
出力にパッチを当てると、SQからのソースがマトリックスの左側に表示されパッチ先（local/digital/USB）が最上部に表示されます。



・グリッドを画面上にドラッグすると、多数の入力と出力チャンネルが表示されます。
・「SLink」または「I / O Port」タブを複数回タッチすると、1~32、33~64、65~96、97~128とのいずれかのチャンネルが表示されます。 各タブには、現在表示されている画面を示す4つのマークがあります。
・パッチを作成または削除するには、パッチブロックをタッチします。
・使用可能なパッチブロックは灰色で、パッチ適用時に薄い灰色で塗りつぶされます。
・現在使用できないパッチブロックは、パッチ適用時に濃いグレーと縞模様のライトグレーで表示されます。

ⓘ現在接続されていないデバイスへのすべてのパッチは、デバイスが接続されると有効になります。

6.1 Local

I / O画面のローカル入力および出力オプションは、SQのアナログ入力および出力ソケット番号と一致します。

6.2 SLink

SLINKポートは、dSnake、DX、gigaACEと互換性があります。 これらのモードを切り替えるので、複数接続のプロトコルはサポートされません。

何も接続されていない場合、現在のモードがタブに表示されます。この場合、「**Not Connected**」と表示されます。

サポートされている構成の全リスト、およびソケット番号の詳細については、www.allen-heath.comを参照してください。

ⓘファームウェアV1.0.1は、セカンダリー（デイジーチェーン）接続をサポートしていません。

6.3 ME systems

ME-1およびME-500ユニットはdSnakeプロトコルで実行されるため、直接接続する場合、またはAR2412またはAB168のエクスパンダーまたはモニターポートに接続する場合のみにサポートされます。

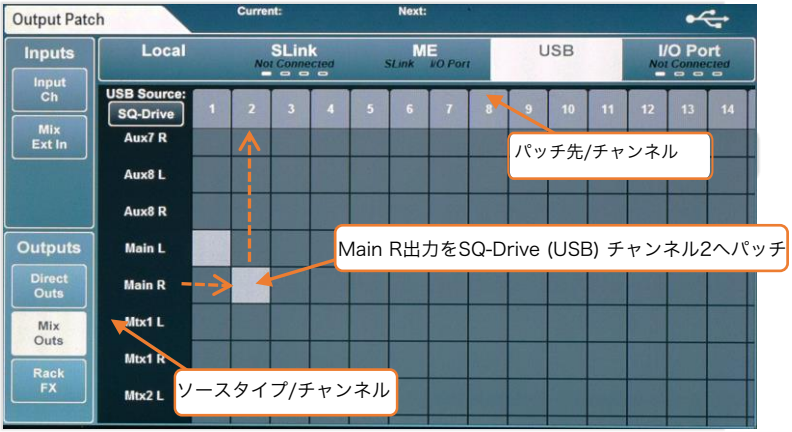


MEパッチは、SLinkポート、I / Oポート、またはその両方に適用されます。

「**ME**」タブの「**SLink**」と「**I / O Port**」のテキストは、いずれかのポートでパッチが現在有効であるかどうかを示します。

ⓘME-1は40チャンネル、ME-500は16モノ/ステレオチャンネル、ステレオチャンネルはSQのMixer Configで設定できます。

6.4 USB



USBパッチは、SQ-DriveまたはUSB-Bストリーミング接続用です。 SQ-Driveは入力と出力のUSBチャンネル1～16を使用し、USB-Bは入力と出力のUSBチャンネル1～32を使用します。

ⓘSQ-DriveとUSB-Bモードは相互性がありません。USBタブが有効になっているときは、パッチマトリックスの左上に「**USB Source**」選択ボタンが表示され、これをタッチするとモードが切り替わります。

6.5 I/O Port

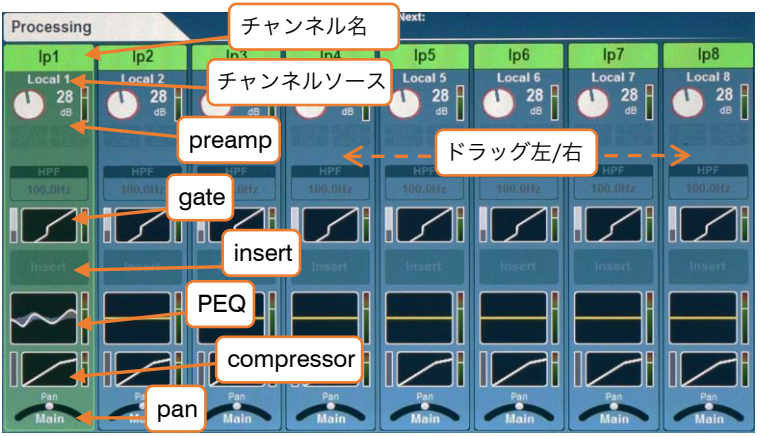
I / Oポートに装着されたSQオプションカードへのパッチ適用に使用されます。

オプションカードのプロトコルが接続されている場合にタブに表示されます。それ以外の場合は、「**Not Connected**」と表示されます。

ⓘ オプションカードは、ファームウェアV1.0.1ではサポートされていないため、ご使用前にファームウェアをアップデートすることをお勧めします。 最新のファームウェアをダウンロードするには、www.allen-heath.comにアクセスしてください。

7. プロセッシング

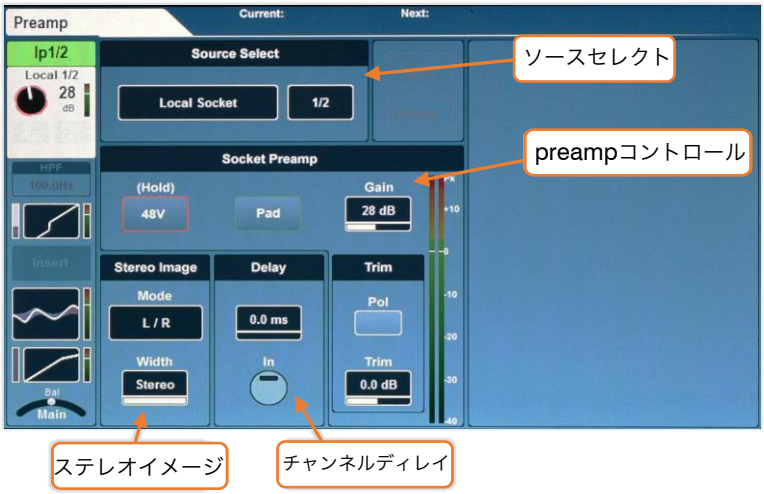
「Sel」キーを押してチャンネルを選択します。 タッチスクリーン周辺のコントロールとキーが点灯し、有効であることが示され、選択されたチャンネルのパラメーターを調整できます。
「Processing」画面キーを押すと、プロセッシング「bank view」が表示されます。



一度に8チャンネル分のプロセッシングが表示され、選択したチャンネルがハイライトされます。 表示されていないチャンネルが選択されている場合、ビューは自動的に変更されますが、タッチ&ドラッグで現在のレイヤーのすべてのチャンネルを表示することもできます。選択されたミックスチャンネルが右端に表示されます。

・名前を変更するには、チャンネル名をタッチします。
・「Apply」をタッチすると、名前が設定されます（チャンネルLCDディスプレイに表示されます）。 他の「Sel」キーを押すと、キーボードが画面上に表示されたままで、複数のチャンネルの命名ができます。
・プロセッシング「block」をタッチして、詳細を表示および調整します。チャンネルの概要は、画面の左側に表示され続けます。 別のチャンネルを選択すると、新しく選択したチャンネルで同じパラメーターを調整できます。
・有効なブロック画面に触れるか、「Processing」キーを押してバンクビューに戻ります。
・オーディオプロセッシングの順番が上から下に表示されます。
ⓘHPFは、便宜上PEQ処理ページで表示および制御されますが、正しい処理順（プリアエプ後）でバンクビューで表示されます。
ⓘDCAチャンネルには、最大28人のメンバーのリストが表示されます。 これ以上のメンバーがいる場合は、リストの一番下に「...」と表示されます。

7.1 Preamp



ソースセレクト

・ソースの種類から選択するには、ソースの種類をタッチします。

Unassigned = ソースがアサインされていません。
Local Socket = SQのリアにあるソケット
SLink Socket = SLink ポート
(AR, AB and DX ユニット。他の SQ's または、 dLive gigaACE オプションカード)。
USB Port = SQ-Drive または USB-B (modeによる)。
IO Port = SQ オプションカード
Signal Generator = 内蔵型 signal generator

・ソースチャンネルをタッチし、タッチスクリーンロータリーを使用してチャンネルをスクロールします。

・ミックスチャンネルのソース選択では、「Mix Ext In」を使用して、プロセッシングされていないの入力を直接ミックスバスにパッチすることができます。

ソケット Preamp –

・「48V」ボタンを長押しすると、ファンタム電源のオン/オフが切り替わります（これを切り替えるとチャンネルは自動的にミュートされます）。
・-20dBパッドのイン/アウトを切り替えるには、「Pad」ボタンをタッチします。
・タッチスクリーンロータリーを使用して調整するには、「Gain」または「Trim」パラメーターを選択します。 ゲインは専用のコントロールを使って調整することもできます。

Gain = 0dB to +60dB
Trim = -24dB to +24dB

ⓘ ゲインは、ローカルマイク入力やリモートオーディオユニットなどのデジタルで制御されたアナログ入力です。 トリムは、デジタル信号またはライン信号用の純粋なデジタル調整です。

・チャンネルのポラリティを反転するには、「Pol」ボタンをタッチします。

Delay – プロセッシングの順番で、msのチャネルディレイはコンプレッサーの後に位置します。ミキシング時に調整されないゲインなどの他のパラメータと同時に設定されるため、プレアンプ画面に表示されます。

・タッチスクリーンロータリーを使用して数値を選択します。

Input channel delay = 0ms to 341.3ms
Mix channel delay = 0ms to 682.6ms

・「In」ボタンをタッチすると、ディレイのイン/アウトを切り替えることができます。

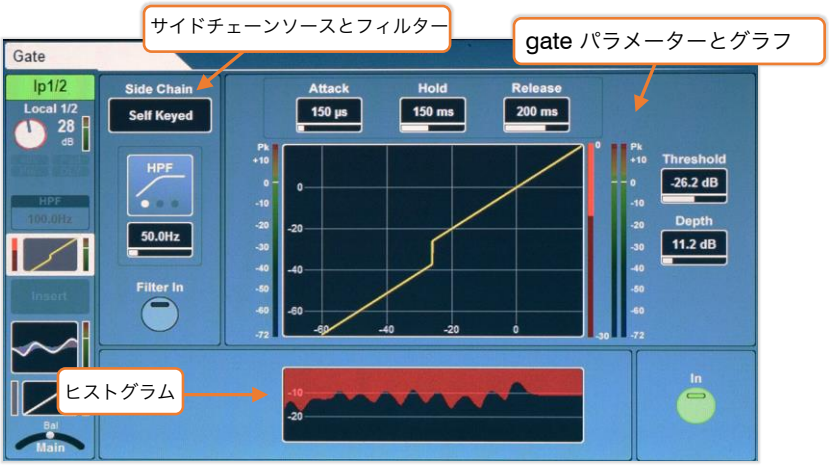
Stereo Image – ステレオ入力チャンネルが選択されている場合にのみ表示されます。モードにタッチして、次のオプションから選択します。

L/R = 標準L/R
R/L = 切替L/R
L-Pol/R = 標準L/R (左に切替られたポラリティー付き)
R-Pol/L = 切替L/R (右に切替られたポラリティー付き)
Mono = 左右両方に出力されます。
L/L = Lが両方のチャンネルに出力されます。
R/R = Rが両方のチャンネルに出力されます。
M/S = ミッド/サイドアレイをデコードします (outputs M+S/M-S)。

ⓘ 通常のM / S使用では、ミッドシグナル/マイクを奇数チャンネルにパッチし、サイド信号/マイクを偶数チャンネルにパッチする必要があります。

widthコントロールはモノラル（0%）からステレオ（100%）まで1%単位で調整できます。

7.2 Gate (input channels)



画面上の「In」ボタンまたはGateの「In」キー（専用のゲートスレッショルドの左側）を使用して、ゲートのイン/アウトを切り替えます。

サイドチェーン –

・「Self Keyed」を選択するか、別のチャンネルからゲートをサイドチェーンします。
・HPF / BPF / LPFモードを切り替えるには、フィルタータイプをタッチします。
「Filter In」ボタンはフィルターを操作します。
・周波数値をタッチして選択し、ロータリーで調整します。

HPF Frequency = 20Hz to 5kHz
BPF Frequency = 120Hz to 10kHz
LPF Frequency = 120Hz to 20kHz

パラメーターとグラフ

・グラフは、ゲートパラメーターの設定を視覚的に表示するために、x軸の入力/スレッショルドとy軸の出力レベルを表示します。

・サイドチェーン入力レベルはグラフの左側のメーターに表示されます。 0dBから-30dBまでのゲート（信号減衰）が、グラフのすぐ右のメーターに表示されます。ゲートがスイッチインされると赤色になり、そうでない場合には白色になります。ポストゲートレベルがこの右側に示されています。

・タッチしてパラメーターを調整し、ロータリーを選択してから使用します。 ゲートスレッショルドには専用のロータリーもあります。

Attack = 50µs to 300ms
Hold = 10ms to 5secs
Release= 10ms to 1sec
Threshold = -72dB to +18dB
Depth = 0dB to 60dB

ヒトグラム – ヒストグラムは、ゲートアクティビティの前の12秒を示し、右から左に移動します。 リダクションメーターと同様に、ゲートが入っているときは、レベルの減少（深さ）が赤で表示され、アウトが白/グレーで表示されます。

7.3 Insert

SQ上のインサートポイントを使用して、使用可能なI / Oソケットとの間でオーディオをルーティングし、外部アナログまたはデジタル処理を「in-line」で実行することができます。



また、内部のFXエンジンと併用することもできます。 詳しくは、FX engine のセクションを参照してください。

Send – インサートセンドの送り先とチャネルを選択します。

Return – インサートリターンの返し先とチャネルを選択します。

センド/リターン先 = Local Socket, SLink Socket, USB Port, IO Port, FX Unit

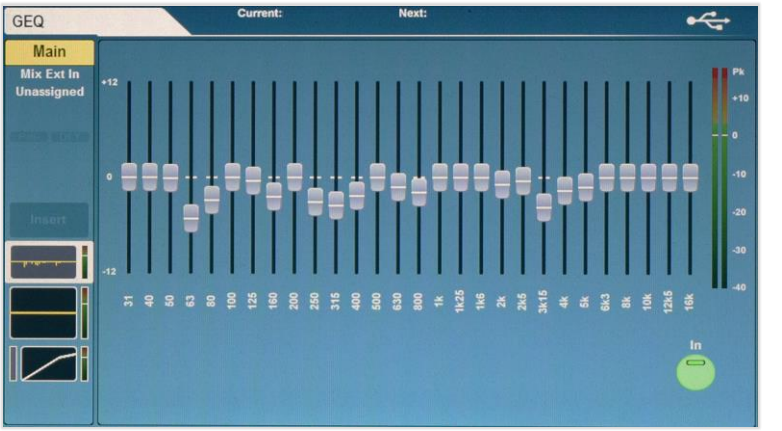
Operating level – インサートの種類に合わせてラインレベルのオプションから選択します。

Digital = デジタルI / Oで使用する場合、補償外です。
Analogue = + 4dBuのアウトボードで使用します。
-10 dBV = -10dBVのアウトボードで使用します。

選択されたチャンネルのインサートが割り当てられ、「In」に切り替わると、「Insert Active」LEDがSQサーフェス上で点灯します。

ⓘインサートのセンドとリターンはレイテンシーを補正していないことに注意してください。

7.4 GEQ (mix channels)



すべてのミックスチャンネルは28バンドのステレオグラフィックEQを備えています。 ミックスチャンネルを選択し、GEQを有効にすると、GEQセクションの緑色の「In」LED（PEQローターの下）が点灯します。

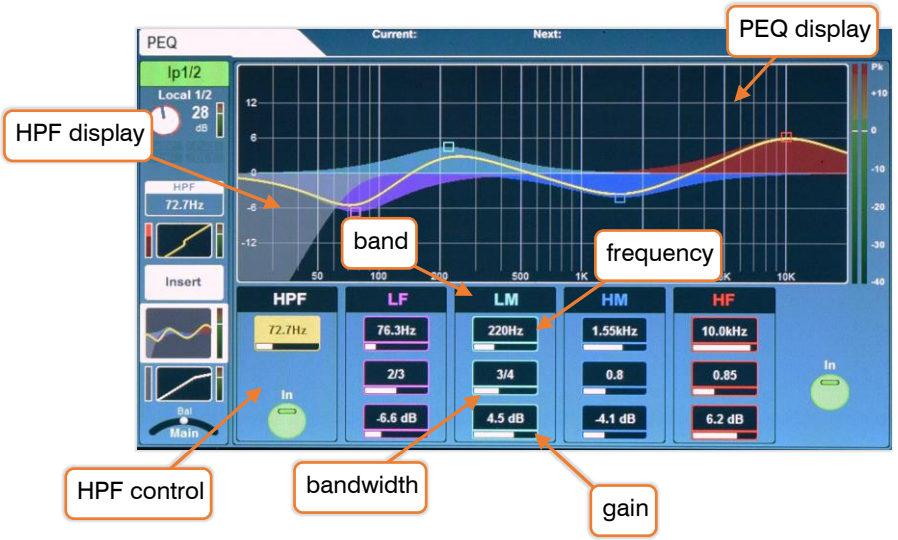
調整を行うには、各バンドのオンスクリーンフェーダーをタッチし、ロータリーを使用します。

Frequencies (Hz) = 31, 40, 50, 63, 80, 100, 125, 160, 200, 250, 315, 400, 500, 630, 800, 1k, 1.25k, 1.6k, 2k, 2.5k, 3.15k, 4k, 5k, 6.3k, 8k, 10k, 12.5k, 16k
Gain = -12dB to +12dB
Bandwidth = 1/3rd oct (constant)

‘Fader Flip’ mode - SQはフェーダーにGEQを表示して、素早く正確な調整を可能にします。

・GEQの「**Fader Flip**」キーを押すと、各フェーダーストリップが周波数帯を表示します。「**Fader Flip**」キーを2回押すと別の周波数帯が表示され、3回目でモードが終了します。
・チャンネルのLCDディスプレイに周波数が表示されます。
・RTAレベル（PAFLバスから供給）は、クロマチック・チャンネル・メータリングを使用して周波数ごとに表示されます。
・RTAの周波数は、フィードバック周波数の検出を助けるために、「**Pk** LED」で表示されます。

7.5 HPF and PEQ



HPF - 処理の順番で、ハイパスフィルター（HPF）はプリアンプの後に配置されます（チャンネルの概要参照）。EQ画面に表示されます。

・スクリーン上のボタンまたは専用のHPF「In」キーを使用してスイッチを入り切りをします。
・HPFの数値をタッチして選択し、ロータリーを使用して調整するか、専用のHPFロータリーを使用します。

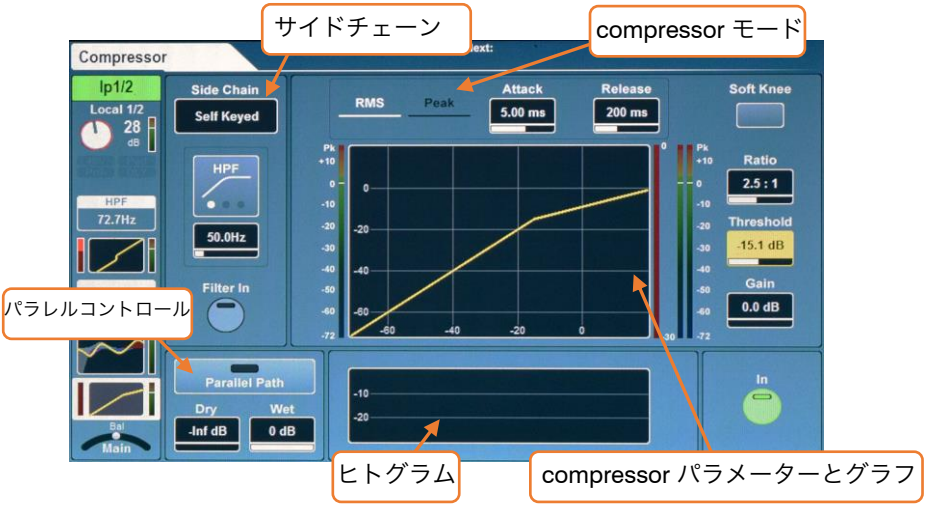
HPF Frequency = 20Hz to 2Khz

PEQ -
・パラメトリックEQの4バンドは、サーフェス上のEQセクションと一致するようにラベルが付けられています。
・PEQが有効の場合、ディスプレイは明るく色付けされ、非アクティブのときはグレー表示になります。
・専用EQコントロールを使用するには、帯域を選択し、ゲイン、帯域幅、および周波数のロータリーを使用して調整します。オンスクリーンで調整するには、パラメーターをタッチしてタッチスクリーンロータリーを使用します。

Frequency (all bands) = 20Hz to 20kHz
Width (LF, HF) = Shelf, 1.5 oct to 1/9th oct
Width (LM, HM) = 1.5 oct to 1/9th oct
Gain (all bands) = -15dB to +15dB

ⓘ 誤操作を避けるために、LFおよびHF帯域の「Shelf」モードは、帯域幅/ Qコントロール「1.5」画面上で調整することによってのみアクセスできます。専用の「Width」ロータリーを使用してこれを設定することはできません。

7.6 Compressor



スクリーン上の「In」ボタンまたはコンプレッサーの「In」キー（専用コンプレッサー・スレッショルド・ロータリーの左側）を使用して、コンプレッサーのイン/アウトを切り替えます。

サイドチェーン –

・別のチャンネルの「Self Keyed」またはコンプレッサーのサイドチェーンを選択します。
・HPF / BPF / LPFモードを切り替えるには、フィルタータイプをタッチします。
・周波数をタッチして選択し、ロータリーを使用して調整します。

HPF Frequency = 20Hz to 5kHz
BPF Frequency = 120Hz to 10kHz
LPF Frequency = 120Hz to 20kHz

Compressor mode -

RMS（平均）モードとピークモードの2つの検出モードがあります。 それらのモードを切り替えるには、モードに触れてください。 有効時は白で表示されます。

Soft Knee –

このボタンをタッチすると、ソフトニーの設定がオンになります。 スレッショルドの効果を滑らかにする可変比率が可能になります（グラフに表示されます）。

パラメーター –

・タッチしてパラメータを調整し、ロータリーを選択してから使用します。

Attack = 30µs to 300ms
Release= 50ms to 2secs
Ratio = 1:1 (no compression) to Infinity (limiting)
Threshold = -46dB to +18dB
Gain (make-up gain) = 0dB to +18dB

グラフ –

・グラフは、コンプレッサーのパラメーター設定を視覚的に表示するために、x軸の入力/スレッショルドとy軸の出力レベルを表示します。
・サイドチェーン入力レベルはグラフの左側のメーターに表示されます。グラフのすぐ右にある0dBから-30dBまでのコンプレッション（信号減衰）がメーターに表示されます。コンプレッサーがスイッチインされると赤色になり、そうでない場合には白色になります。ポストコンプレッサーのレベルが右側に表示されます。

ヒトグラム –ヒストグラムには、前の12秒間のコンプレッサー動作が右から左に移動しています。 レベルリダクションメーターの場合と同様に、コンプレッサーが入っているときは、レベルリダクション（深さ）が赤で表示され、アウトが白/グレーで示されます。

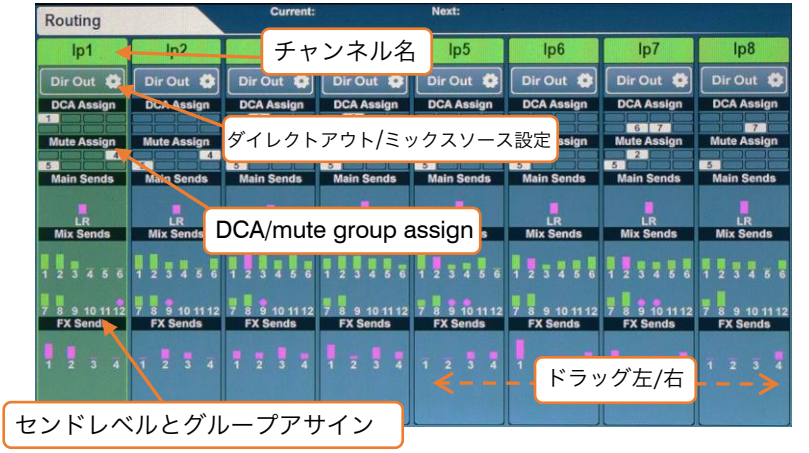
パラレルコンプレッション – これにより、コンプレッションされた信号とコンプレッションされていないの信号をブレンド（インライン）できます。

・「Parallel Path」ボタンをタッチして、入力を切り替えます。
・Dry/Wet 値をタッチし、タッチスクリーンロータリーを使用して調整します。

Dry/Wet individual level = -infinity to 0dB

8. ルーティング

任意の「Sel」キーを押してチャンネルを選択し、「Routing」画面のタブを押してルーティング「bank view」を表示します。8チャンネルを一度に表示し、選択したチャンネルをハイライトで表示します。



チャネルがDCAまたはミュートグループに割り当てられている場合は、番号の付いたアイコンが表示されます。

Main / LR、Auxセンド、FXセンドのセンドレベルが表示されます。これらは、割り当てられている場合は塗りつぶされたバーとして表示され、割り当てられていない場合はアウトラインとして表示されます。バーはポストフェーダーの場合はピンク、プリフェーダーの場合はグリーンに表示されています。

ミックスがグループとして設定されていて、チャンネルがグループに割り当てられている場合、これは小さな円で示されます。

表示されている8つのチャンネルは、異なるチャンネルが選択されている場合は自動的に調整されますが、レイヤー内の他のチャンネルを見るために左右にドラッグすることもできます。

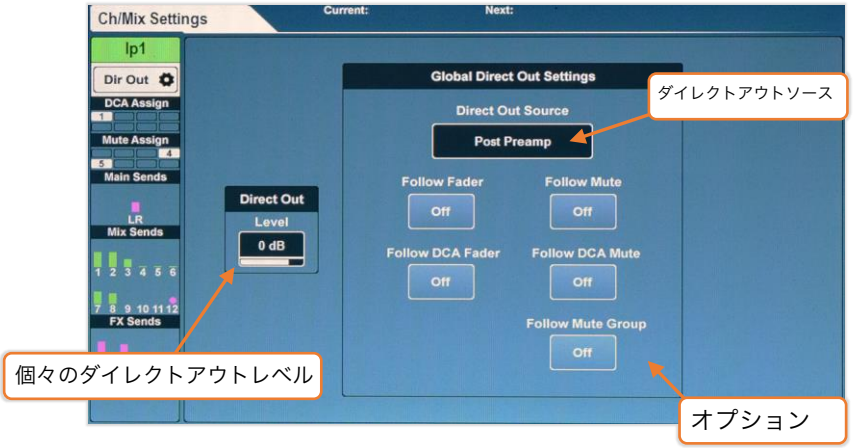
・名前を変更するには、チャンネル名をタッチします。
・「Dir Out」ボタンをタッチすると、ダイレクトアウト設定が表示されます。
・DCA / Mute Assign 「ブロック」をタッチして割り当てを確認します。
・Main/Mix/FXセンドレベルの任意の場所をタッチすると、そのチャンネルの詳細なセンド情報が表示されます。

ⓘミックスチャンネルには、チャンネル概要の下部に「Matrix Sends」ブロックも表示されます。

ⓘマトリックスチャネルは、センドレベルではなくソースレベルを表示します。

ⓘDCAチャンネルには、最大28の「members」のリストが表示されます。これ以上のメンバーがいる場合は、リストの一番下に「...」と表示されます。

8.1 Direct out



選択したチャンネルのダイレクトアウトプットレベルと、すべてのチャンネルに影響を及ぼすグローバルダイレクトアウト設定が表示されます。現在選択されているチャンネルが左側に表示されます。

・レベル値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。これは各チンネルで個別に調整されます。

Direct out level = -inf to +10dB

・ダイレクトアウトシグナルがフェーダーやミュートの影響を受けるかどうかをオンスクリーンボタンに触れ選択します。

・ダイレクトアウトソースの値をタッチして、チャンネルの「タップオフ」ポイントを選択します。各ソースポイントは順番に提示され、有効なすべてのプロセッシングの影響を受けます。

Post Preamp = 信号はプリアンプゲインの影響を受けます。
Post HPF = 信号はハイパスフィルターの影響も受けます。
Post Gate = 信号はゲートの影響も受けます。
Post Insert Return = 信号はインサートの影響も受けます。
Post PEQ = 信号はPEQの影響も受けます。
Post Comp = 信号はコンプレッサの影響も受けます。
Post Delay = 信号は、msディレイを含むすべてのチャネル処理の影響を受けます。

8.2 ミックスセンドとバランス設定

ミックスチャンネルには、入力チャンネルにある「Dir Out」ボタンの代わりに異なるボタンがあります。これをタッチすると、次のオプションが表示されます。

Main – (‘**Main Snd**’)

・「Output Bal」の値をタッチし、ロータリーを使用して調整し、出力バランスを調整します。

Group – (‘**Group**’)

・「Output Bal」の値をタッチし、ロータリーを使用して調整し、出力バランスを調整します。
・「All On」または「All Off」ボタンをタッチすると、すべてのチャンネルをグループに割り当てたり、割り当てを解除できます。

Aux – (‘**Aux Snd**’)

・「Channel Source」の値をタッチして、Auxがチャンネル信号を受ける場所を選択します。各ソースポイントは順番に提示され、各ソースポイントは順番に提示され、有効なすべてのプロセッシングの影響を受けます。

Post Preamp = 信号はプリアンプ・ゲインの影響を受けます。
Post Insert Return = 信号はHPF、ゲート、およびインサートの影響も受けます。
Post EQ = 信号はPEQの影響も受けます。
Post Delay = 信号は、msディレイを含むすべてのチャネル処理の影響を受けます。

・「All On」または「All Off」ボタンをタッチすると、すべてのチャンネルをAUXにアサインまたはアサイン解除します。
・「All Pre」または「All Post」ボタンをタッチすると、すべてのチャンネルセンドをプリフェーダーまたはポストフェーダーに設定します。

FX – (‘**FX Snd**’)

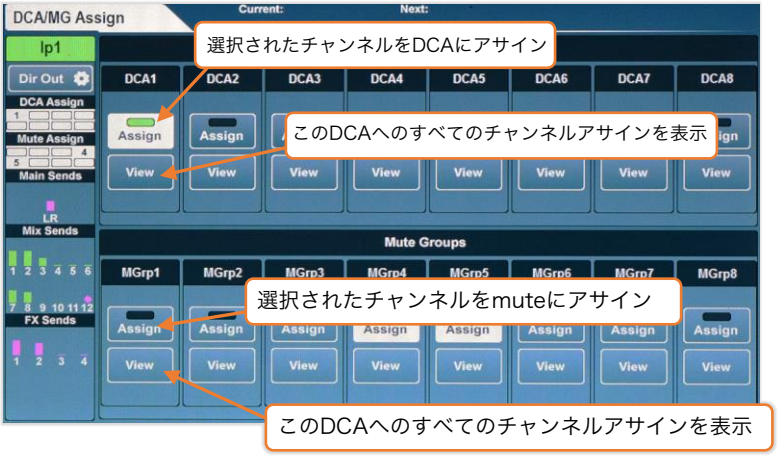
・「Channel Source」をタッチして、FXセンドバスがチャンネル信号を受ける場所を選択します。 各ソースポイントは順番に提示され、有効なすべてのプロセッシングの影響を受けます。

Post Preamp = 信号はプリアンプ・ゲインの影響を受けます。
Post Insert Return = 信号はHPF、ゲート、およびインサートの影響も受けます。
Post EQ = 信号はPEQの影響も受けます。
Post Delay = 信号は、msディレイを含むすべてのチャネル処理の影響を受けます。

・「All On」または「All Off」ボタンをタッチすると、すべてのチャンネルをFXバスに割り当てたり、割り当てを解除できます。

・「All Pre」または「All Post」ボタンをタッチすると、すべてのチャンネルセンドをプリフェーダーまたはポストフェーダーに設定します。

8.3 DCA/Mute Groups



左側にハイライトされたチャンネルのすべてのDCAとミュートグループが表示されています。

・「Assign」ボタンをタッチすると、選択したチャンネルをDCAまたはミュートグループに割り当てまたは割り当てを解除します。

「View」ボタンをタッチすると、現在DCAまたはミュートグループに割り当てられているすべてのチャンネルが表示されます。

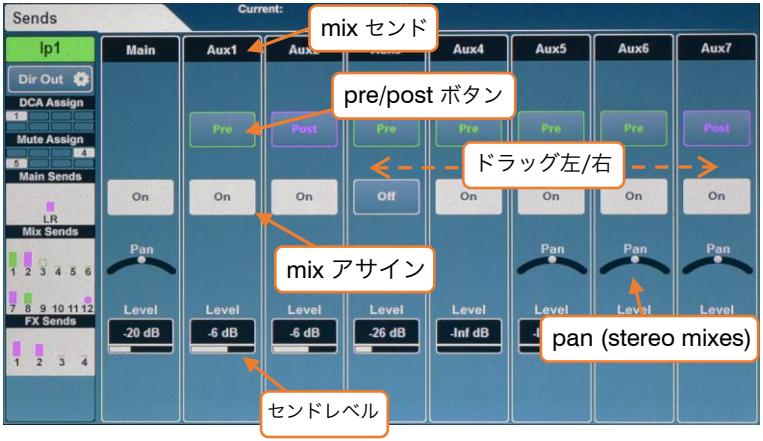
・このウィンドウでタッチしてドラッグすると、すべてのチャンネルが表示されます。
・割り当てボタンをタッチすると、チャンネルを割り当てたり、割り当てを解除したりすることができます。
・DCA / Mute Assign「ブロック」に触れて、選択したチャンネル割り当てビューに戻ります。

「Processing」と「Routing」の両方の画面で、DCAチャンネルには最大28チャンネルの「メンバー」（そのDCAに割り当てられたチャンネル）のリストが表示されます。 これ以上のメンバーがいる場合は、リストの一番下に「...」と表示されます。

・チャンネルを表示、割り当て、または割り当て解除するには、DCAメンバーリストの任意の場所をタッチします。

ⓘ DCAまたはミュートグループをミュートすると、割り当てられたチャンネルのミュートキーが点滅します。

8.4 センドレベルとミックスアサイン



この画面には、選択したチャンネルのセンドとミックスの割り当てがすべて表示されます。

・タッチして左右にドラッグすると、すべてのミックスとセンドが表示されます。
・「On / Off」ボタンをタッチすると、チャンネルをミックス/センドまたはマトリックスにアサインまたはアサイン解除します。
・Pre-fadeまたはPost-fadeの設定は、「Pre / Post」ボタンをタッチします。
・「Pan/Bal」コントロールをタッチし、ロータリーを使用してセンドのパンまたはバランスを設定します。
・「Level」の値をタッチし、ロータリーを使用して調整するか、フェーダーを調整します。

ⓘ一時的に「CH to All Mix」キーを押すと、現在選択されているチャンネルのフェーダー・ストリップのすべてのセンド・レベルが表示されます。 このキーを押したまま、アサインまたはプリフェード・キーを押したままにすることもできます。

8.4 ミックスからマトリックスアサイン

ミックスをマトリックスに送る方法は3つあります。

1) ミックスが選択されている場合、マトリックスセンドはセンドレベルとアサイン画面に表示されます。
2) マトリックスを選択すると、マトリックスソースがセンドレベルと割り当て画面に表示されます。
3) ミックスチャンネルが選択され、SQので一時的に「CH to All Mix」キーが押されると、マトリックスセンドがフェーダーに表示されます。

9. メーター

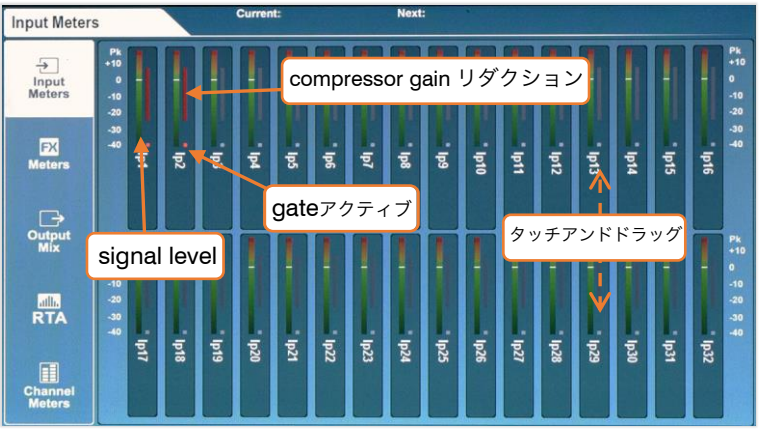
9.1 PAFL LED Meter

タッチスクリーンの右側にあるSQのサーフェイスにある12セグメントのLEDメーターは、PAFLバスのレベルメーターを表示します。

デフォルトでは、PAFLキーが有効になっていないので、メインのLRミックス・レベルが表示されます。

ⓘ12セグメントLEDの下のPAFL LEDインジケーターは、PAFLルーティングキーまたはボタンが有効な場合に点灯します。

9.2 Input/FX/Output Meters

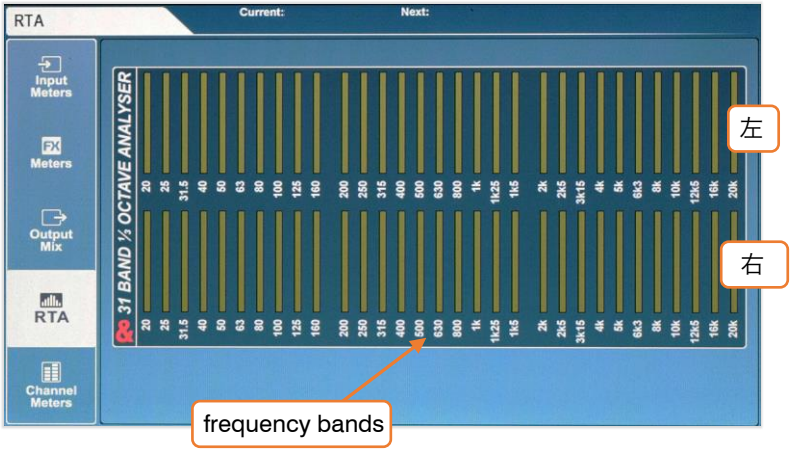


「Meters」画面の最初の3つのタブには、「Input Meters」、「FX Meters」、「Output Meters」が表示されます。

・主要なカラーメーターは、-40dB～+ 10dBのレベルを表示します。
・ゲイン・リダクションメーターは、0dBから-30dBまでのレベルの低下を示します。コンプレッサーがスイッチオンされている場合は赤色/明るい赤色になり、スイッチオフの場合はグレー/白色になります。
・ゲートアクティブインジケーターは、ゲートがスイッチオンされている場合は赤色/明るい赤色で、ゲートがスイッチオフされている場合はグレー/ホワイトになります。
・タッチしてドラッグすると、他のチャンネルを表示できます。

ⓘ 入力メーターには、プロセッシング後のレベルが表示されます。

9.3 RTA



- RTAはPAFLの選択と設定に従います。
- 1/3 oct帯域幅の31の周波数のレベルを表示します。
- 左または右のいずれかの周波数のメーターが赤で表示されます。

システムセットアップ - 測定マイクロフォンを接続し、PAFLバスで「リスニング」することで、RTAメーターを使用して分析することができます。

シグナル入力 – RTAを使用すると、チャネル/グループ/ミックスの問題のある周波数を見つけることができます。 PEQやGEQと組み合わせて使用すると、フィードバックを引き起こす可能性のある出力から周波数レベルを簡単に下げることができます。

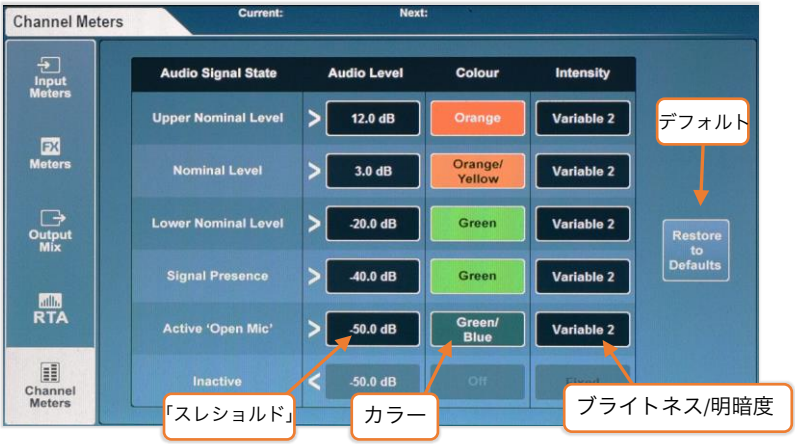
ⓘGEQの「Fader Flip」モードも参照してください。このモードでは、チャンネルメーターを使ってRTAを表示します。

9.4 その他メーター

- より詳細なメーターも処理画面全体に表示され、特に各プロセッシング「ブロック」のゲインステージングに役立ちます。
- チャンネルストリップ上のピーク（Pk）LEDはマルチポイントセンシングを使用して、チャンネルまたはミックスのどこかでピークを表示します。
- チャンネルが無効レイヤーのチャンネルストリップでピークが発生している場合は、レイヤー選択キーが赤で点灯します。
- SQ-ドライブメーターは、その状態（録音/再生）に応じて、送信される信号またはSQ-ドライブから戻る信号のいずれかを表示します。

9.5 クロマチック・チャンネルメーター

クロマチック・チャンネルメーターは、単一のLEDのスペースに高解像度メーターの情報を表示します。 これは従来のメーターよりもはるかに広いレベルの範囲をカバーし、「チャンネルメーター」タブで動作をカスタマイズすることができます。



- 「Audio Level」の値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

ⓘ 「Audio Level」の値は、上下のレベルの設定で決まります。

- 「Audio Signal State」の色をタッチし、このレベル範囲の色を調整するためにロータリーを使用します。

Colours = White, Red, Orange, Orange/Yellow, Yellow, Green, Green/Blue, Blue, Blue/Red, Off.

- メーターの動作を選択するには、「明暗度」の値をタッチします。

Fixed = メーターは状態間で即座に切り替わります。
Variable 1 = メーターは、その範囲の端点に近づいて変化します。
Variable 2 = メータは全範囲にわたって変化します。

- 「Restore to Defaults」ボタンをタッチすると設定がデフォルトに戻ります。

Upper Nominal	>	+12.0dB	Orange	Variable 2
Nominal	>	+3.0dB	Orange/Yellow	Variable 2
Lower Nominal	>	-20.0dB	Green	Variable 2
Signal Presence	>	-40.0dB	Green	Variable 2
Open Mic	>	-50.0dB	Green/Blue	Variable 2
Inactive	<	N/A	N/A	N/A

10. FX Engines

10.1 FX バスとリターン

SQには4つのFXセンドバスがあり、SQのデフォルト状態で最初の4つのFXエンジンスロットに送ります。（これらは便利なFXプリセットでプリロードされています）。

これらのバスは、任意のミックスバスと同じ方法で使用できます。

・1～4のFXキーを押して、各フェーダーストリップのフェーダーのセンドレベルを表示および調整します。

・チャンネルを選択した状態で、「CH to All Mix」キーを押して、選択したチャンネルのすべてのFXバス・センドを表示して調整します（他のすべてのセンドとともに）。

・マスターセンドレベルは、マスターチャンネルに表示されます。

FX出力信号は、各FXエンジンスロットの対応するFXリターンチャネルに戻されます。（すなわち、「FXユニット1」出力は「Fx1Rtn」にルーティングされます）。

・すべてのFXリターンチャンネルはステレオで、PEQ処理機能を備えています。

・任意の入力チャンネルと同じ方法で、FXリターンを割り当ててミックスに送ることができます。

ⓘ FXリターンチャンネルをフェーダーストリップに割り当てることはできますが、FXエンジンの出力からルーティングされていない場合は表示されません（バックパネルの「Mix - > Return」など）。

10.2 ユニットロードとプリセット

「FX」スクリーンキーを押すと、現在選択されているFXエンジンの前面/背面が表示され、他のFXユニットがロードされ、画面の左側に空のスロットが表示されます。



・使用するスロットを選択します。
・FX Libraryを開くには、サーフェス上の「Library」キーを押します。
・「Factory」のプリセットを選択し、ロータリーを使用して完全なリストをスクロールします。 （アルファベット順）。 異なるプリセットは、異なるFX単位を使用します。
・「Recall」ボタンにタッチすると、プリセットがリコールされます。

ⓘユーザープリセットは、FXライブラリーの「User」セクションから保存およびリコールすることができます。

10.3 パラメーター調整

各FXユニットには異なるパラメータセットがありますが、すべて同じ方法で動作します。

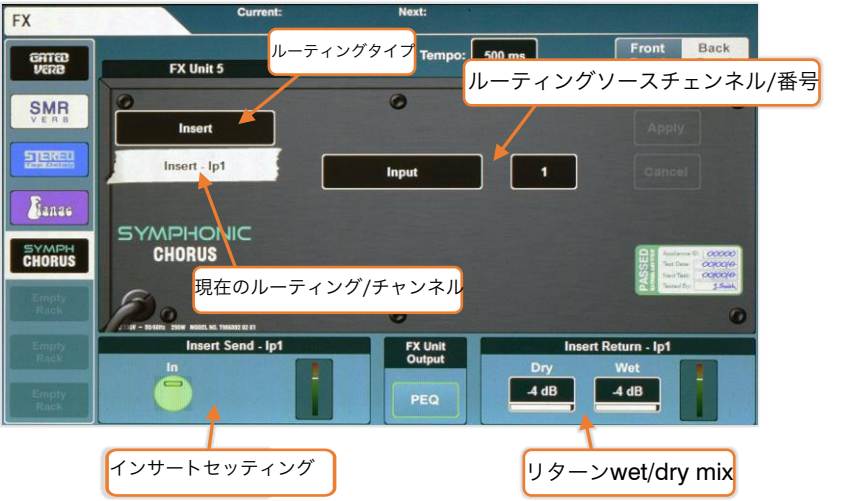
・モードまたはステイタスを切り替えるには、任意のボタンをタッチします。
・パラメーターのコントロールまたは値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

SMRユニットは特別なケースです。「Expert」ボタンを押すと、リバーブの微調整のためのより詳細なコントロールが可能になります。 このモードでは、「Page」ボタンを使用してすべてのパラメーター設定を繰り返します。

10.4 他のソースからFXへのセンド

Mix->Return - 4つのFXバスを使用して送るだけでなく、ミックスを使用してFXエンジンに送るることもできます。これにより、「send on faders」を使用して8つのFXエンジンに送ることができます。 このルーティングタイプは、チャネルダイレクトアウトでも使用できます。

ルーティングを調整するには、FXスクリーンの右上にある「Back Panel」ボタンを押します。



1) ルーティングタイプを設定します。「Mix -> Return」
2) ルーティングソースの値をタッチしてソースを選択します。

Sources = FX Send, Group, Aux, Main, Matrix, Direct Output

3) チャンネルの値にタッチし、ロータリーを使用して調整します。
4) 「Apply」ボタンをタッチして変更を適用します。

Inserts – 個々のチャンネルまたはミックスにFXを挿入することができます。
チャネルの挿入ポイントが自動的に設定され、使用されます。

1) ルーティングタイプを「Insert」に設定します。
2) ルーティングソースの値をタッチしてソースを選択します。

Sources = Input, Group, Aux, Main, Matrix

3) チャンネルの値にタッチし、ロータリーを使用して調整します。
4) 「Apply」ボタンをタッチして変更を適用します。

10.5 FX レベルとPEQ

「Mix -> Return」としてルーティングされると、現在選択されているFXエンジンスロットのPAFL、ミュート、およびレベル設定が、FXセンドとFXリターンの両方の画面の下部に表示されます。

- PAFLまたはミュートチャンネルのボタンをタッチします。
- 数値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

FXエンジンがインサートとして使用されているときは、「In」ボタンを押してwet/dryミックスの値を表示します。

- インサートイン/アウトを切り替えるには、「In」ボタンをタッチします。
- dry（未処理）信号とwet（処理済）信号を調整するには、wetまたはdryをタッチします。

Dry/Wet 各レベル = -infinity to 0dB

画面の中央下部にあるPEQボタンを押して、FXの出力に影響するPEQを表示および調整します。 これは、どのチャンネル処理PEQとまったく同じ方法で動作します。

ⓘ すべてのレベルとPEQ設定は、FX画面に表示され、ミキサー内の別の場所で使用可能なコントロールを複製します。
例えば、PEQは、FXリターンチャンネルを選択するときにアクセス可能な同じPEQです。

11. ショー/シーンのセーブとリコール

SQのすべての設定は、「シーン」または「ショー」ファイルに保存してリコールすることができます。
シーンは使用中のリコールを目的としていますが、ショーファイルにはイベントや特定の設定のすべてが含まれています。 ショーファイルは、設定をバックアップしたり、別のユニットに転送できます。

Saved in each Scene
Input and output routing
Preamp settings
Channel processing
Channel assignments and send levels
Panning and balance
Channel mutes
Mute Groups and DCA assignments and levels
Fader strip assignments
FX units and parameters
Channel names
SoftKey/SoftRotary assignments
Footswitch settings

Saved in each Show
300 Scenes
Chromatic Channel Metering
Surface brightness preferences
Signal Generator settings
Talkback settings
Global scene filter settings
Channel safes
MIDI channel
Audio Sync settings
PAFL settings
Stereo Input/Mix and Mix Config
USB source

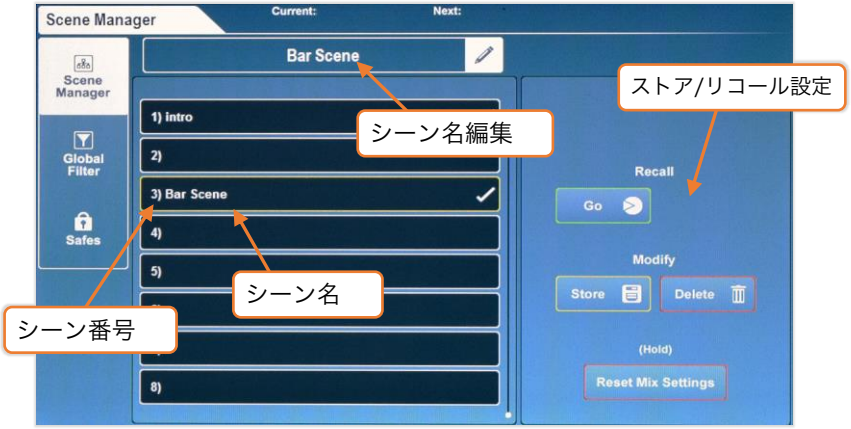
Saved in the SQ
Network settings
Unit name
Fader Calibration

要約：

・「シーン」はすべてのミックス設定のスナップショットです。
・「ショー」ごとに300のシーンスロットがあります。
・すべてのシーンに加えて、「ショー」には、すべてのSQ設定（クロマチックチャンネルメータリングや統合サーフェスイルミネーション設定など）が含まれます。

11.1 シーンマネジャー

シーンマネジャーは、シーンのストア、リコール、および削除を可能にします。



現在のミックス設定をすべて新しいスロットに保存するには、空のスロットにタッチします：

・「Store」ボタンをタッチすると、「シーン[x]」という名前で保存されます。
または
・空のシーン名フィールドをタッチすると、シーンを保存と同時に名前を付けるよう求められます。

シーンをリコールする

・シーンをタッチしてハイライト表示にします（選択を変更する、またはすべてのシーンをスクロールするためにロータリーを使用します）。次に、「Go」ボタンをタッチします。

シーンの名前を変更するには：

・シーンをタッチし、画面上部のシーン名フィールドをタッチします。

シーンを上書きするには：

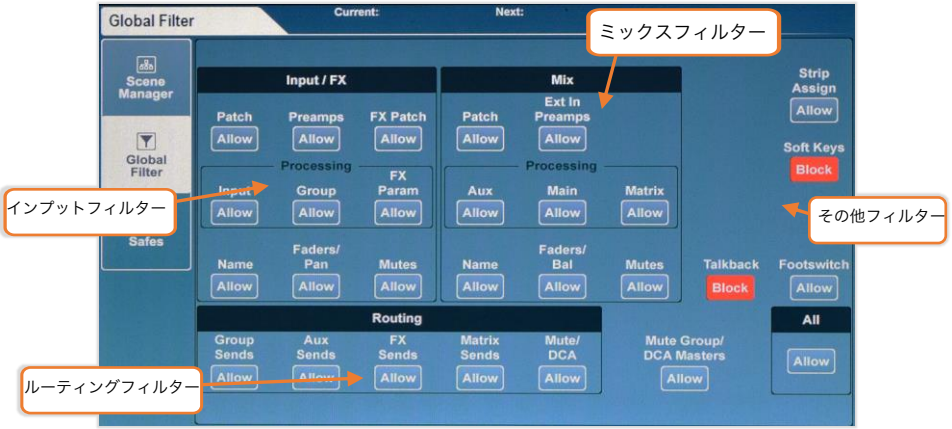
・上書きするシーンをタッチし、「Store」ボタンをタッチします。

シーンを削除するには：

・削除したいシーンをタッチし、「Delete」ボタンをタッチします。

11.2 グローバルフィルター

グローバルシーンフィルターは常に有効で、シーンを呼び出すときに変更される設定に影響します。



・フィルターボタンをタッチすると、「Allow」または「Block」に切り替えることができます。
・シーンを呼び出すときは、ブロックされたパラメーターには影響しません。

ⓘ「Talkback Preamp」、「SoftKeys」、「SoftRotaries」をブロックするのが一般的です。シーンが呼び出されるたびに同じように機能し続けます。

- すべてのフィルターを一度に切り替えるには、「All」ボタンを使用します。

11.3 セーフ

「Safes」は、シーンをリコールするときにチャンネルへの変更をブロックします。



・「Input」、「FX」または「Mix」タブをタッチすると、すべてのチャンネルセーフを表示できます。
・チャンネルをセーフにするには、「Safe」ボタンをタッチします（ボタンが白色になります）。

11.4 ショーマネジャー (USB)

「Show」では、すべてのSQの設定とシーンを一度に保存し、SQ-Driveを使用してミキサーの設定をバックアップしたり、別のSQに転送することができます。

ショーマネージャーは、「**Utility**」画面の「**USB Data**」タブにあります。



ショーをUSBデバイスに保存するには：

・「**Store New**」ボタンをタッチすると、ショーに名前を付けるよう指示されます。

ショーを呼び出すには

・ショーをタッチしてハイライトに表示します（選択を変更するにはロータリーを使用し、すべてのショーをスクロールします）。「**Recall**」ボタンをタッチします。

シーンの名前を変更するには：

・ショーをタッチし、画面中央の「**Name**」フィールドをタッチします。

シーンを上書きするには：

・上書きするシーンをタッチし、「**Overwrite**」ボタンをタッチします。

ⓘSQ-Driveが録音や再生に使用されている場合、ショーのストアやリコールはできません。

ⓘショーのストアまたはリコールは、USB-Bストリーミングを中断します。

12. 設定

12.1 ストリップアサイン

SQのすべてのフェーダーストリップは自由に割り当てられます。
「Setup」画面のキーを押し、 「Surface」タブより 「Strip Assign」タブをタッチします。



·画面の上段にSQチャンネルが表示されます。 右のボタンをタッチしてチャンネルタイプを選択し、左右にタッチしてドラッグすると、使用可能なすべてのチャンネルが表示されます。

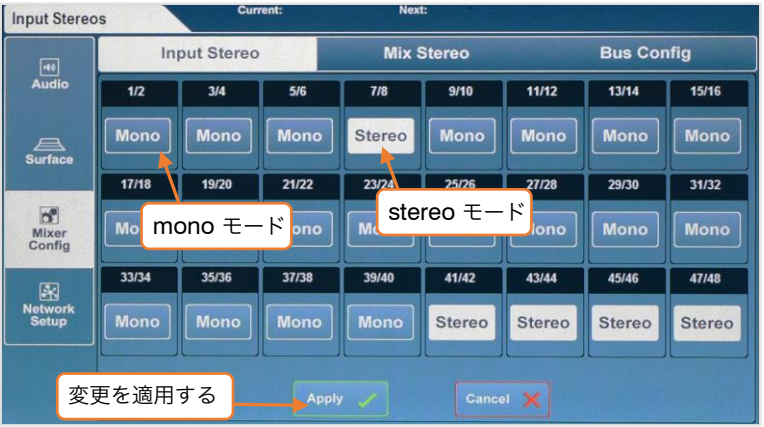
·フェーダーストリップが画面の下段に表示されます。 右にあるボタンをタッチしてレイヤーを選択し、左右にタッチしてドラッグすると、使用可能なフェーダーストリップスロットがすべて表示されます。

·フェーダーストリップにチャンネルを割り当てるには、一番上の行から一番下の行のフェーダーストリップにタッチしてドラッグします。

ⓘ FXリターンチャンネルはフェーダーストリップに割り当てることができますが、FXエンジンの出力からルーティングされない限り表示されません（例：バックパネルの「Mix - > Return」に設定）。

12.2 インプット/ミックス ステレオアサイン

ミキサー全体でチャンネルをステレオチャンネルとして使用するには、まずステレオモードに切り替える必要があります。
「Setup」画面で「Mixer Config」タブをタッチし、「Input Stereo」または「Mix Stereo」のいずれかをタッチします。





・「Mono / Stereo」ボタンをタッチすると、入力チャンネルまたは任意のミックスの奇数/偶数のペアをモノラルとステレオのモードに切り替えることができます。
・変更を適用するには「Apply」ボタンをタッチします。
・変更を取り消して現在の状態を表示するには、「Cancel」ボタンをタッチします。

12.3 ミックスコンフィグレーション

12のステレオミックスは、「Bus Config」タブの下でグループモードと補助モードを切り替えることができます。



・「Number or Groups」または「Number of Auxes」のいずれかの数値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

・グループの数を増やすとAuxの数が減少し、その逆も同様です。

・変更を適用するには、「Apply」ボタンをタッチします。

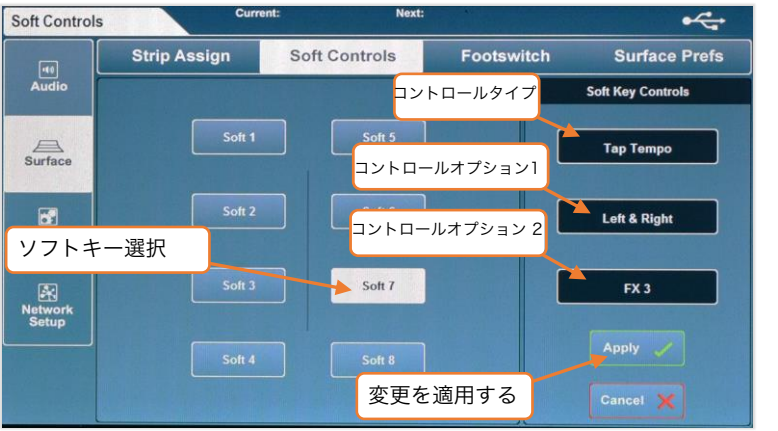
Auxは常に最初のミックスキーに順番に割り当てられ、後でグループが割り当てられます。たとえば、バスを5 x グループと7 x AUXとして設定すると、AUX 1~7はミックスキー1~7になり、グループ1~5はミックスキー8~12になります。

ⓘ Auxに割り当てられたミックスキーは、有効なときに青色に点灯し、グループに割り当てられたミックスキーはマゼンタに点灯します。

12.4 ソフトキー/ソフトロータリー

SoftKeysとSoftRotaries（SQ-6）では、SQのサーフェスコントロールをカスタマイズできます。

「**Setup**」画面キーを押してから、「**Surfece**」タブに続いて「**Softcontrols**」タブをタッチして、ソフトキーおよびソフトロタリーの割り当てを表示および調整します。



ⓘ SQ-6を使用する場合、ソフトキーまたはソフトロータリーの選択ボタンの左側に2つのボタンが表示されます。 「**SoftKeys**」または「**SoftRotaries**」をタッチして、それぞれの割り当てを表示および調整します。

SoftKeyまたはSoftRotaryの機能を変更するには:

1) 番号の付いたSoftKeyまたはSoftRotaryボタンをタッチします。これは、SQのサーフェイス上のラベリングと一致し、選択すると白くなります。
2) コントロールタイプをタッチしてタイプを選択します。
3) コントロールオプション1（利用可能な場合）をタッチしてオプションを選択します。
4) コントロールオプション2をタッチしてオプションを選択します。
5) 変更を適用または無効するには、「**Apply**」または「**Cancel**」ボタンをタッチします。

SoftKeysは、機能によって異なる色で点灯します。タップ・テンポに割り当てられると、現在のテンポを表示するために点滅します。

各SoftRotaryにはLCDディスプレイとキーがあり、アクティブなときに点灯します。

- SoftRotary LCDディスプレイにチャンネルまたはパラメータが表示されます。
- SoftRotaryキーは、各SoftRotary機能に対して異なる方法で動作します。
- 現在の回転機能によって、SoftRotary照明の色が変わります。

Possible SoftKey assignments

Control Type	Control Option 1	Control Option 2	Colour
Unassigned	N/A	N/A	N/A
Channel Mute	N/A	All audio channels	Red
Mute Group	N/A	Mute Groups 1 to 8	Red
DCA Mute	N/A	DCA's 1 to 8	Red
Tap Tempo	Left, Right, Left & Right	FX engines 1 to 8	Red
Global Tap Tempo	N/A	N/A	Red
Recall Scene	N/A	All saved scenes	Red
Scene Store Current	N/A	N/A	Red
Scene Recall Go	None, Auto Increment	N/A	Red
Scene Next	N/A	N/A	Red
Scene Previous	N/A	N/A	Red
Channel PAFL	N/A	All audio channels	Yellow
DCA PAFL	N/A	DCA's 1 to 8	Yellow
PAFL Clear	N/A	N/A	Red
SQ-Drive Stereo Play	N/A	Previous, Stop, Start/Pause, Next	N/A
SQ-Drive Stereo Record	N/A	Stop, Start/Pause, Arm	N/A
SQ-Drive Multitrack	N/A	Stop, Start/Pause, Arm	N/A
MMC	N/A	Rewind, Play, Pause, Stop, FFwd, Record	N/A
DAW Control	N/A	Bank Up, Bank Down	N/A
Talkback	N/A	N/A	Green
Mix Select	N/A	All mixes	Blue/Magenta

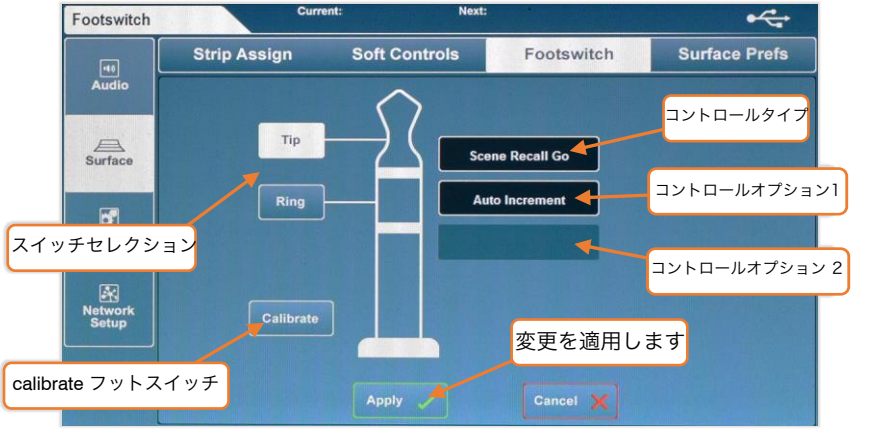
Possible SoftRotary assignments

Control Type	Control Option 1	Control Option 2	Key
Unassigned	N/A	N/A	N/A
Main Level Fader	Current Selection, all main send levels	N/A	Mute
DCA Level Fader	DCA's 1 to 8	N/A	Mute
Send Level Fader	All input and mix channels	Main LR, all aux and FX sends	N/A
Pan	All input and mix channels	Main LR, all stereo aux	Centre
Gate	Threshold, Depth, Attack, Hold, Release	Current Selection, all input channels	In/Out
Compressor	Threshold, Ratio, Gain, Attack, Release	Current Selection, all input and mix channels	In/Out
Preamp	Gain, Trim	Current Selection, all input and mix channels	Pad
HPF Frequency	Current Selection, all input channels	N/A	In/Out
PEQ Band	LF, LM, HM, HF	Current Selection, all input and mix channels	Param

12.5 フットスイッチ

TSまたはTRS 1/4プラグのシングルまたはデュアルモーメンタリーまたはラッチングフットスイッチを「Footswitch」ソケットに接続すると、SQのハンズフリーコントロールが可能になります。

「Setup」画面で、「Surface」タブをタッチし、次に「Footswitch」タブをタッチして、フットスイッチの設定と割り当てを表示して調整します。



フットスイッチを最初に接続するときは、「Calibrate」ボタンをタッチして使用するスイッチのタイプを設定します。画面の指示に従います。

・シングルフットスイッチは、通常、「Tip」接続のみを使用します。
・デュアルフットスイッチを使用して、どのスイッチがチップまたはリングに接続されているかを調べる必要がある場合があります。

スイッチのタイプのオプションは次のとおりで、フットスイッチのハードウェアと一致する必要があります。

Unused = 使用したくないスイッチ用に選択します。
Latching = 押してスイッチを入れ、もう一度押すとスイッチがオフになります。
Momentary = 押しながらスイッチを入れ、離すとスイッチをオフになります。
Soft Latch = ラッチスイッチとしてモーメンタリスイッチを使用できるようにします。

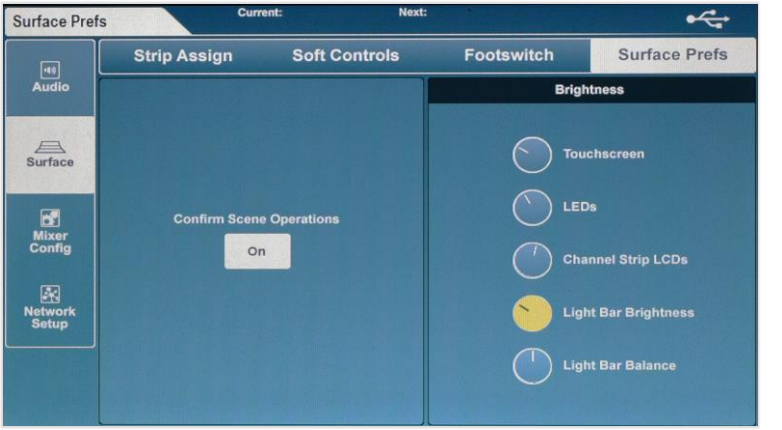
フットスイッチに機能を割り当てるには:

1) 「Tip」または「Ring」ボタンのいずれかをタッチしてスイッチを選択します。
2) コントロールタイプをタッチしてタイプを選択します。
3) コントロールオプション1（利用可能な場合）をタッチし、オプションを選択します。
4) コントロールオプション2（使用可能な場合）をタッチしてオプションを選択します。
5) 変更を適用または無視するには、「Apply」または「Cancel」ボタンをタッチします。

ⓘ 可能なフットスイッチの割り当ては、「Global Tap Tempo」を省略した、SoftKeysと同じです。

12.6 サーフェイスプリファレンス

「Setup」キーを押してから「Surface」タブをタッチし、「Surface Prefs」タブをタッチしてサーフェイスの設定を確認します。



ⓘ この画面は、「Home」ページ「Brightness」ボタンを押しても表示されます。

・シーンの上書き/リコール/削除操作を実行するときに確認ポップアップを有効または無効にするには、「Confirm Scene Operations」ボタンをタッチします。
・パラメーターダイヤルをタッチし、ロータリーを使用して調整します。

個々のコントロール= タッチスクリーンの明るさ、LEDの明るさ、チャンネルストリップの明るさ、統合されたサーフェイスイルミネーションの明るさ、統合されたサーフェイスイルミネーションのカラーバランスを調整します。

12.7 PAFL

Pre / After Fade Listenの設定は、SQのヘッドフォン出力にルーティングされ、12セグメントLEDメーターに表示され、SQのRTAにルーティングされるPAFLバスの動作に影響します。

「**Setup**」画面キーを押してから「**Audio**」タブをタッチし、続いて「**PAFL**」タブを押して設定を表示し、調整します。

・オプションをオンまたはオフにするには、画面左側の任意のボタンをタッチします。

Additive (On) = 複数のチャンネルストリップを同時にPAFLバスに送ることができます。
Sel Follow PAFL (On) = PAFLキーを押すとチャンネルが選択（**Sel**）されます。
PAFL Follow Mix (On) = PAFLがマスター/ミックスチャンネルストリップでアクティブになると、PAFLにルーティングされるチャンネルはミックス選択に従います。
Input Override Mix (On) = PAFLがアディティブモードのとき、入力チャンネルのPAFLキーを押すと、PAFLバスからミックスチャンネルの割り当てが解除されます。すべての入力チャンネルの割り当てを解除すると、以前に割り当てられたミックスが再割り当てされます。
LR to PAFL (On) = 他のPAFLルーティングが有効でない場合、メインLRミックスはPAFLバスにルーティングされます。

Output AFL (Off) = PAFLバスにルーティングされた出力チャンネルはプリフェードになります。（Pre-Fade Listen）
Output AFL (On) = PAFLバスにルーティングされた出力チャンネルはポストフェードになります。(Post/After Fade Listen)
Input AFL (Off) = PAFLバスにルーティングされた入力チャンネルはプリフェードになります。（Pre-Fade Listen）
Input AFL (On) = PAFLバスにルーティングされた入力チャンネルはポストフェードになります。(Post/After Fade Listen)

PAFLディレイは、ライブサウンドでサウンドシステムからの自然に遅れたサウンドが、ヘッドホンやモニターに供給される瞬間的な信号と同時に聞こえるため、位相の問題や可聴の遅れが生じます。

・ミリセカンドの数値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

PAFL bus delay = 0ms to 682.6ms

PFLトリムは、PAFLバスにルーティングされるPFL信号のレベルを減衰させます。 AFLには影響しません。

・トリム値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

PFL Trim = -24dB to 0dB

12.8 Audio Sync と AES サンプルレート

「Setup」画面キーを押してから、「Audio」タブ、「Audio Sync Opts」タブをタッチして、同期およびAESデジタル出力サンプルレートオプションを確認します。

・「Audio Clock Source」の値をタッチしてソースを選択します。

Internal = 内部オーディオクロックに同期します。
SLink = SLINKポートが受信しているデジタルクロック信号と同期する。
I/O Port = 接続されたオプションカードのポートで受信されているデジタルクロック信号に同期します。

・変更を適用するには、「Apply」ボタンをタッチします。

ⓘ SQは、同期しているクロックソースが48kHzで動作していても、常に96kHzで内部的に動作します。

ⓘ 正常に同期すると、ソース選択の右側に緑色の印が表示されます。

ⓘ 適切なクロックが受信されていない場合は、ソース選択の右側とSQタイトルバーに赤い十字が表示されます。

必要に応じて、デジタルAES出力のサンプルレートを変更することができます。

・現在のサンプルレート値をタッチして、オプションを選択します。

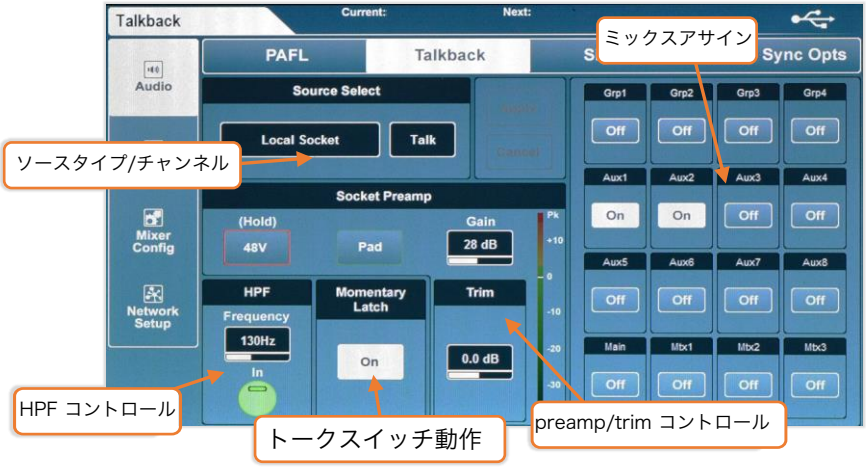
AES Output Sample Rate = 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz

・変更を適用するには、「Apply」ボタンをタッチします。

12.9 トークバック設定

トークバックは、エンジニアがオーディオ出力経由で通信できるようにするために使用されます。「Talk」キーを押すと、トークバックソースは割り当てられたすべてのミックスにルーティングされます。

「Setup」画面キーを押してから、「Audio」タブをタッチして「Talkback」タブをタッチすると、トークバック設定が表示され、調整できます。



・ソース、プリアンプ、トリムの設定は、Processing / Preamp画面での設定と同様です。

・同様に、HPFはProcessing / HPFとPEQ画面の入力チャンネルと同じように動作します。

・モーメンタリーラッチの「On」ボタンをタッチすると、「Talk」キーのラッチモードが有効になります。 このモードがオンのとき、「Talk」キーを素早く1回押すとトークバックがオンまたはオフに切り替わりますが、キーが押されたままの時、モーメンタリーモードのように機能し続けます。

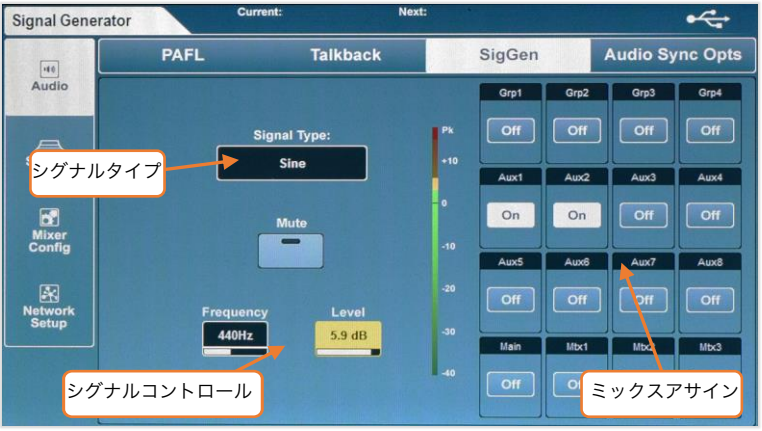
・任意のミックスアサインボタンをタッチして、そのミックスのトークバックフィードをオンまたはオフに切り替えます。

ⓘ ローカル「Talk」ソケットは入力チャンネルソケットとして使用できることに注意してください。「Talk」が入力チャンネルに割り当てられている場合、そのチャンネルのProcessing画面でプリアンプの設定を変更すると、Talkback設定の設定が変更され、その逆もあります。 ローカル「Talk」ソケット以外のソースがトークバックソースとして割り当てられている場合、同じ論理が適用されます。 しかしHPFとトリムは独立しています。

12.10 シグナルジェネレーター

シグナルジェネレーターは、レベルコンフィグ用にミックスに信号を送るため、またはRTAと組み合わせて使用できます。また、システムの周波数リスポンスを確認するための測定用マイクとして使用されます。

「Setup」画面キーを押してから、「Audio」タブをタッチした後に「SigGen」タブをタッチすると、信号ジェネレータの設定を表示および調整できます。



·信号の種類を選択するには、「Signal Type」の値をタッチします。

Signal Type = Sine, White noise, Pink noise, Band-pass noise

·信号をミュートまたはミュート解除するには、「Mute」ボタンをタッチします。

·「Frequency」（使用可能な場合）をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

Frequency = 20Hz to 20kHz

·「Level」をタッチし、ロータリーを使用して調整します。

Level = -72dB to +18dB

·任意のミックスアサインボタンをタッチすると、シグナルジェネレーターをミックスに割り当てたり、アサインしたりすることができます。

ⓘ シグナルジェネレーターは、任意の入力チャンネルでも使用できます。 Processing/Preamp画面の「Source Select」で「Signal Generator」を選択します。

12.11 ネットワーク設定

ワイヤレスコントロールやTCP / IP経由のMIDIでの使用など、イーサネット上でのコントロールに使用するには、SQをネットワーク上のデバイスとして接続する必要があります。

デフォルト設定では、SQはDHCPを使用してIPアドレスを割り当てる任意のネットワークに自動的に接続し、同じネットワークに接続されたデバイス上で実行されているすべてのアプリに表示されます。

状況によっては、スタティックIPアドレスを使用することが必要または望ましい場合もあります。 接続しているネットワークを完全に理解していない場合は、スタティック設定を使用することはお勧めしません。

「**Setup**」画面キーを押してから、「**Network Setup**」タブをタッチして、ネットワーク設定を表示して調整します。



·DHCPオン/オフボタンを押すと、DHCPモードがオン/オフに切り替わります。DHCPモードがオンの場合は、スタティック設定を調整することはできません。

·新しい値を入力するには、任意のネットワーク値にタッチします。

·「**Unit Name**」をタッチすると、SQの名前が変更されます（ネットワーク上の他のデバイスに見られます）。

·変更を適用または無効にするには、「Apply」または「**Cancel**」ボタンをタッチします。

ⓘ ワイヤレスルーターまたはアクセスポイントを使用する場合は、SQの「ネットワーク」ポートを使用可能な「LAN」ポートに接続してください。 SQのネットワークポート「Lnk」LEDが点灯し、ネットワーク動作を表示します。

ⓘ 「**Utility**」画面のキーを押し、「**General**」タブをタッチして「**Diagnostics**」タブをタッチすると、SQの現在のIPアドレスを確認できます。 IPアドレスは、リストされた情報の一番下にリストされています。

13. SQ-Drive と USB-B

SQ-DriveとUSB-BはSQ内で同じオーディオテクノロジーを使用しているため、互いに排他的に動作します。 したがって、オーディオを録音または再生する前に、SQが実行されているモードを選択する必要があります。

また、モードを変更する必要がある帯域幅を大量に消費する他のタスク（SQドライブのフォーマットなど）があります。

「I / O」画面キーを押してから、USBタブをタッチすると、USB入力または出力のパッチが表示されます。



マトリックスの左上に表示されている「USB Source」スイッチには、現在のモードが表示されます。

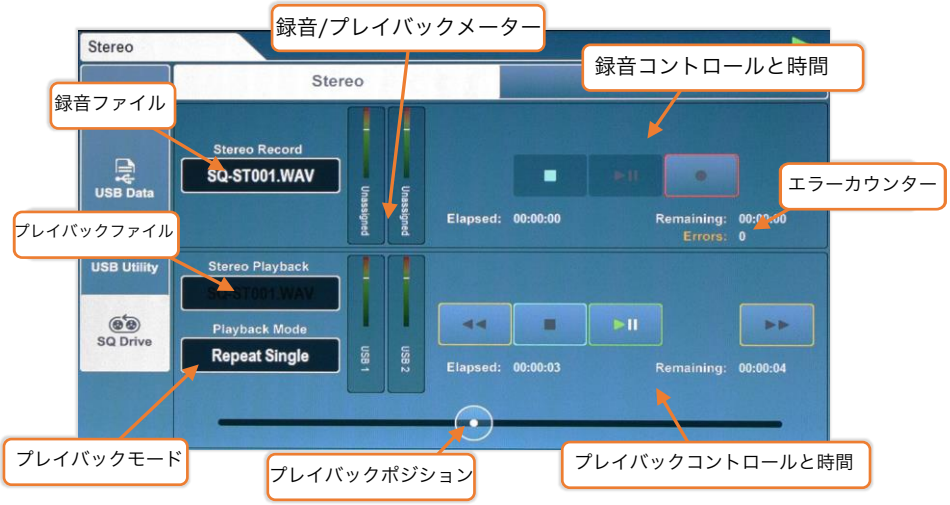
・「USB Source」スイッチをタッチすると、「SQ-Drive」と「USB-B」モードが切り替わります。

・SQ-Drive接続とUSB-B接続の両方のオーディオパッチは同じです。

・SQ-Driveは、入力と出力の両方でチャンネル1～16のパッチのみを使用します。 USB-Bストリーミングは、すべてのUSB入出力チャンネル（32 x 32）を利用できます。

13.1 SQ-Drive レコーディングとプレイバック

「Utility」画面キーを押し、「SQ-Drive」タブをタッチしてから「Stereo」タブをタッチすると、SQ-Drive Stereoの録音/再生画面が表示されます。



画面の上段は録音用で、下段は再生用です。

レコーディング -

・録音ボタンを押して録音を開始すると、新しい「Stereo Record」ファイル名が表示され、「Remaining」時間値が表示され、「Errors」カウンターがリセットされます。

・再生/一時停止ボタンを押して録音を開始すると、「Elapsed」と「Remaining」の時間値に進行状況が表示されます。

・録音を停止するには、停止ボタンを押します。

ⓘ「Errors」カウンターは、検出された書き込みエラーがあれば数値が増加します。 これは、録音に適したUSBデバイスの適切な数値です。

プレイバック –

・「Stereo Playback」ファイル名をタッチします。 次に、「Playback」または「Recording」ボタンを押して、各フォルダのファイルを表示します（SQで録音した録音は、「Recording」フォルダに表示されます）。

・トラックをタッチして選択し、必要に応じてロータリーを使用してトラックのリストをスクロールします。

・トラックをロードするには、「Select」ボタンをタッチします。

・「Playback Mode」の値をタッチすると、モードが選択されます。

Play All = フォルダ内のすべてのトラックを連続して再生します。
Play Single = 選択したトラックを再生して停止します。
Repeat All = フォルダ内のすべてのトラックを連続して繰り返し再生します。
Repeat Single = 選択したトラックを繰り返し再生します。

・トランスポートボタンをタッチして、前後のトラックに移動するか、停止または再生/一時停止します。
・円形のプレイバックポジションマーカーをタッチしてドラッグすると、トラックの別のポイントにジャンプできます。

フォーマットとフォルダー

SQ-Driveはステレオ録音を '<SQ-DRIVE>：\ AHSQ \ USBREC'に保存します。

96kHzの24bitステレオ* .wavファイルで、録音された順に名前が付けられています。
例えば、SQ-ST001.WAV、SQ-ST002.WAV ...

コンピュータからコピーされたステレオ再生用のファイルは、 '<SQ-DRIVE>：\ AHSQ \ USBPLAY'に配置する必要があります。

これらはモノラルまたはステレオ、非圧縮PCM * .wavファイル、44.1、48または96kHz、そして16、24ビットです。

ヘッダー（BWFなど）やデータ（マーカーなど）を含むことはできません。

13.2 SQ-Drive マルチトラックレコーディングとプレイバック

「Utility」画面のキーを押し、「SQ-Drive」タブをタッチした後に「Multitrack」タブをタッチすると、SQ-Drive Multitrackの録音/再生画面が表示されます。



レコーディング -

·録音ボタンを押し録音が開始されると、新しいマルチトラックファイル名が表示され、「Remaining」の数値が表示され、「Errors」カウンターがリセットされます。
·再生/一時停止ボタンを押し録音をが開始されると、「Elapsed」と「Remaining」に時間値と進行状況が表示されます。
·録音を停止するには、停止ボタンを押します。

プレイバック –

·マルチトラックファイル名をタッチします。 トラックをタッチして選択し、必要に応じてロータリーを使用してトラックのリストをスクロールします。
·トラックをロードするには、「Select」ボタンをタッチします。
·「Playback Mode」の値をタッチすると、モードが選択されます。

Play All = フォルダ内のすべてのトラックを連続して再生します。
Play Single = 選択したトラックを再生して停止します。
Repeat All = フォルダ内のすべてのトラックを連続して繰り返し再生します。
Repeat Single = 選択したトラックを繰り返し再生します。

·トランスポートボタンをタッチして、前後のトラックに移動するか、停止または再生/一時停止します。
·円形のプレイバックポジションマーカーをタッチしてドラッグすると、トラックの別のポイントにジャンプできます。

ⓘ 「Errors」カウンターは、検出された書き込みエラーがあれば数値が増加します。 これは、録音に適したUSBデバイスの適切な数値です。

ⓘ すべてのUSBデバイスが、SQ-Driveマルチトラック録音機能で使用されている高帯域幅をサポートするわけではありません。マルチトラックをUSBに直接録音するときの最良の結果を得るには、USBスティック/「ペン」ドライブではなく高速の外付けハードドライブを使用してください。

フォーマットとフォルダー –

SQ-Driveは、親フォルダー「<SQ-DRIVE>：\ AHSQ \ USBMTK」内の別々のフォルダにマルチトラック記録を保存します。フォルダーは、録音が行われた順に名前が付けられます。例えば、「SQ-MT001」、「SQ-MT002」...

USBチャンネル、「'TRK01.WAV」、「TRK02.WAV」に基づいて命名された16個の96kHz 24ビットモノラル非圧縮PCM * .wavファイルが記録されます。

ヘッダー（BWFなど）やデータ（マーカーなど）は含まれません。

コンピュータからコピーされたマルチトラック再生用のファイルは、正確なフォーマット、命名、およびフォルダー構造に従ってください。オーディオも含まれていなくても、ファイルのサイズと長さは同じで、16ファイルが作成できる必要があります。

13.3 コンピューター接続

コンピューターとの間でオーディオをストリーミングするには、USB-AからUSB-Bケーブルを使用してSQにオーディオを接続する必要があります。

SQはUSB 2.0規格に準拠しているため、高速USBケーブルの使用を推奨します。 システムが使用されている環境によっては、フェライトビーズを使用するケーブルを使用することも有益です。

ⓘ すべてのUSB 3.0ポートがUSB 2.0と完全に後方互換性があるわけではないことに注意してください。最良の結果を得るためには、USB 2.0ポートを使用することをお勧めします。 利用できない場合、xHCIホストコントローラドライバーを利用するUSB3.0ポートは、ストリーミングオーディオに使用されるアイソクロナス転送方法をサポートしていないので、推奨しません。

Macに接続 –

SQはCore Audioに準拠しているため、ドライバは必要ありません。
USB経由でSQを接続すると、オーディオとMIDIの両方のデバイスとして表示されます。

Windows PCに接続 -

最新のSQ Windows ASIO / WDMドライバをダウンロードするには、Allen&HeathのWebサイト（www.allen-heath.com）を参照してください。

SQを接続する前に、指示に従ってドライバーをインストールしてください。

ルーティング -

·パッチ時は、コンピューターからの出力はSQ上の入力であり、SQ上の出力はコンピューター上の入力であることに注意してください。

·すべてのUSB I / Oは機能するためにパッチを適用する必要がありますが。デフォルトでは、SQ入力チャンネル47・48は、USBチャンネル1・2から供給さます。USB出力チャンネル1・2は、メインLRミックスから供給されます。

·WDMドライバーを使用してSQ for Windowsのシステム/デフォルトサウンドを使用する場合、USBチャンネル1と2のみがSQで使用されます。 32の入力チャンネルと32の出力チャンネルをすべて使用するには、互換性のあるプログラムでASIOドライバーを使用する必要があります。

SQをMacでデフォルトの出力オーディオデバイスとして選択すると、デフォルトでUSBチャンネル1と2が使用されます。

14. MIDI と DAWコントロール

USBまたはTCP / IP経由でコンピューターに接続すると、SQはMIDIコントロールメッセージを送受信します。

これらは、2組の双方向メッセージに分けられます。 SQを制御用と、外部ソフトウェアまたは機器を制御用です。

SQの制御と自動化のためのMIDIプロトコルは、本ガイドには記載されていません。 最新の利用可能なMIDIプロトコルのドキュメントをダウンロードするには、www.allen-heath.comを参照してください。

14.1 MIDI チャンネルと MMC

「Utility」画面のキーを押してから、「General」タブに続いて「MIDI」タブをタッチして、MIDIチャンネル設定を表示して調整します。 この画面には、コンピューターシーケンサーやDAWをコントロールするためのMMC（MIDI Machine Control）ボタンも表示されます。



・「MIDI Channel」の数値をタッチし、ロータリーを使用して調整します。
・変更を適用または無効にするには、「Apply」または「Cancel」ボタンをタッチします。

ⓘ Allen & Heath DAWコントロールドライバー（すべてのMIDIフェーダーストリップ）で使用するチャンネルは、SQの残りの部分が設定されているMIDIチャンネルより常に1つ多いことに注意してください。 DAWコントロールチャンネルにMIDIチャンネル1を使用するには、メインSQ MIDIチャンネルを16に設定します。

・MMCコントロールに触れると、標準のMMCトランスポートメッセージがすべてのチャンネルに送信されます。 これらは、使用されているコントロールサーフェス・エミュレーション用の特定のトランスポートメッセージにDAWコントロールドライバーによっても変換されます。

14.2 MIDI フェーダーストリップ

SQには32個のMIDIフェーダーストリップがあり、フェーダーストリップレイヤーのどこにでも割り当てることができます。

「Mute」、「Sel」、「PAFL」キーが押されたとき、またはフェーダーストリップフェーダーが調整されたときに、USBとTCP / IPを介して標準MIDIメッセージを送信します。 また、同じメッセージにも応答します。

・メッセージはそのまま使用でき、制御のためにソフトウェアによって「learnt」されます。
・デフォルトでは、これらのメッセージはMIDIチャンネル2で送信されます。
・キーを押すとノートが送信され、続いてノートがオフになり、フェーダーが連続してチェンジメッセージを送信します。

SQ MIDI Fader Strip Control	MIDI message
Mute keys 1 to 32	Note On/Off 0 (C-1) to 31 (G1)
Sel keys 1 to 32	Note On/Off 32 (G#1) to 63 (Eb4)
PAFL keys 1 to 32	Note On/Off 64 (E4) to 95 (B6)
Faders 1 to 32	CC 00 to CC 31

14.3 DAW コントロール

MIDIフェーダーストリップは、Allen&Heath DAWコントロールドライバーでも使用できます。 これにより、MIDIストリップからのメッセージが変換され、DAWで使用するための標準コントロールサーフェスメッセージがエミュレートされます。

最新のDAWコントロールドライバーをダウンロードし、インストールと正しい設定の手順を表示するには、www.allen-heath.comを参照してください。

SoftKeysは、MMCメッセージまたは「Bank Up」、「Bank Down」メッセージを送信するように割り当てることもできます。

ⓘ DAWコントロールドライバーで使用するためのMIDIフェーダーストリップ、MMCコントロール、および特定のソフトキーのアサインメントのみが対象となります。 他の物理的なコントロール（EQロータリーなど）は、SQ自体と引き続き機能します。

15. ミックス/システムリセット

15.1 リセットミックス設定

SQを既知の状態（「デスクをゼロにする」）に戻すには、「**Scenes**」画面キーを押してから、「**Scene Manager**」タブをタッチします。「**Reset Mix Settings**」ボタンを押したままにすると確認のポップアップが表示されます。

ⓘ ミックス設定がリセットされると、グローバルフィルタは無視され、セーフはすべてオフになります。

主要なデフォルト設定は以下の通りです。

Routing	Setting
Mix Bus Configuration	Aux 1-4 (mono), Aux 5-8 (stereo), Group 9-12 (Stereo)
Local Input patching	1 to 1 (as labelled), then unassigned to 46
Local Output patching (Aux)	1 to 1 for mono, then ordered for stereo
Local Output patching (Main)	11 (Main L) & 12 (Main R)
Local Output patching (Matrix 1)	A & B
AES output	Main LR
Remote Audio Unit Inputs	Unassigned
Remote Audio Unit Outputs	Mixes 1 to 1, then Main LR on last 2 sockets.
SQ to USB	Main LR on 1 & 2, then 1 to 1 direct out
USB to SQ	USB 1 & 2 to input channels 47 & 48

Processing type	Setting
48v	All off
Preamp gains	+28dB
HPFs	Out/100Hz
Gates	Out/-30dB
Inserts	Out
PEQs	In/Flat
GEQs	In/Flat
Compressors	Out/3:1/-9dB
Pans	Centred

Control	Setting
SoftKeys 1-6	Mute Groups 1 to 6
SoftKey 7	Unassigned
SoftKey 8	Global Tap Tempo
SoftKeys 9-16	Unassigned
SoftRotaries	Unassigned

FX unit	Setting
1	EMT 250 reverb/FX1Snd/FX1Rtn
2	Hall 480 reverb/FX2Snd/FX2Rtn
3	Stereo Tap Vocal Delay/FX3Snd/FX3Rtn
4	ADT Classic/FX4Snd/FX4Rtn
5-8	Empty/Unpatched

Send type	Level
Input channels	-inf
FX return channels	0dB
Main LR master	0dB
Aux master	0dB
Group master	-inf
FX master	0dB

15.2 システムリセット

フルシステムリセットするには、SQの電源を入れるときにEQ「In」と「HF」キーを押し続けます。 これにより、すべてのミックス設定と、ショー/シーンやライブラリーを含むすべての保存されたデータがクリアされますので、SQ-Driveの必要なデータはバックアップしてください。

15.3 フェーダーカリブレーション

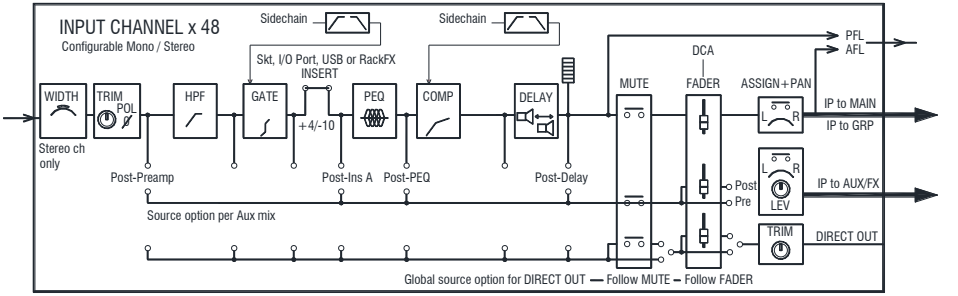
場合によってはフェーダーの位置がずれることがありますが、これは多くの理由で起こる可能性があり、通常は心配することはありません。 ただし、カリブレーションが必要な場合があります。

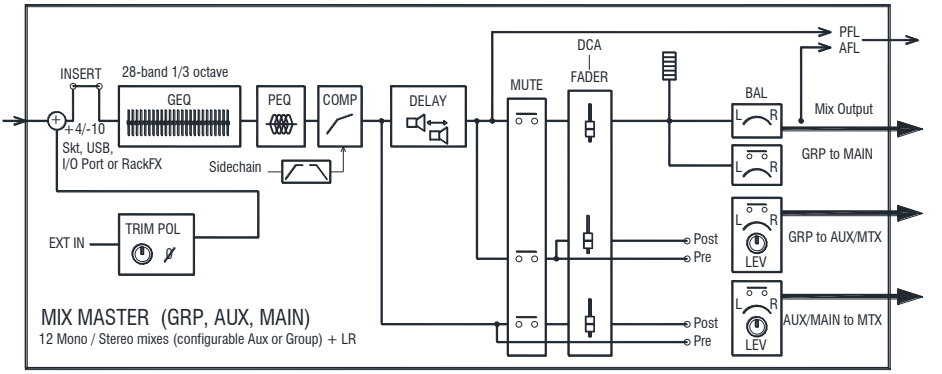
1）「Utility」画面のキーを押してから「General」タブをタッチし、「Calibration」タブを押します。

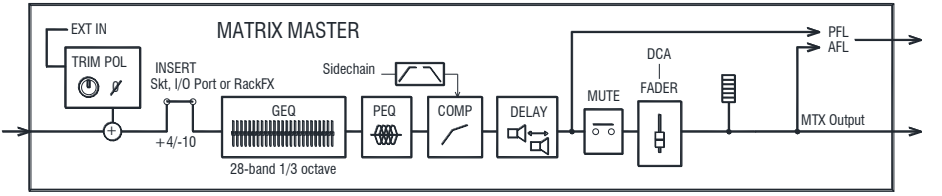
2）「Calibrate」ボタンをタッチすると、画面の指示に従い +10dB、0dB、-10dB、-30dB、-infの位置にフェーダーが配置されます。

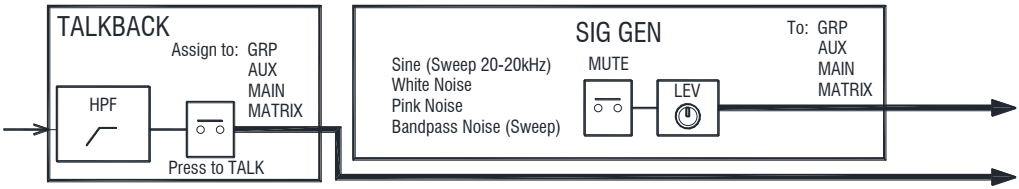
3）SQを再起動します。

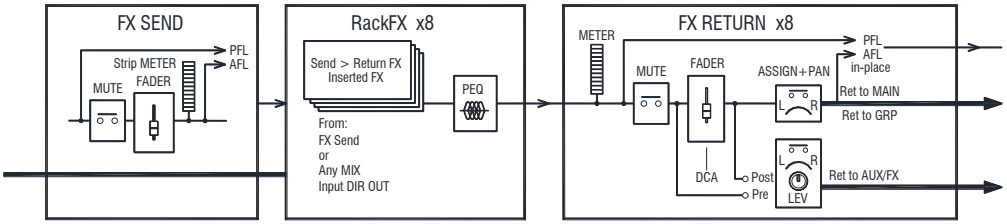
16. ブロック図面

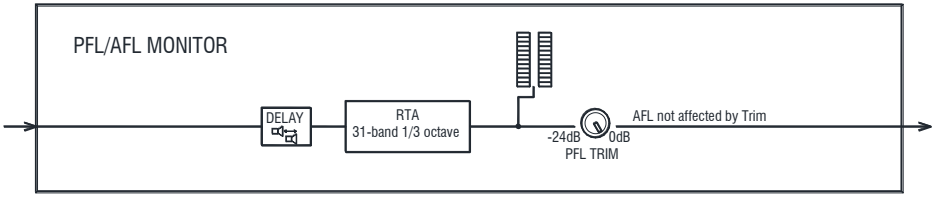

INPUT CHANNEL x 48
Configurable Mono / Stereo
Sidechain
Sidechain
Skt, I/O Port, USB or RackFX
INSERT
WIDTH
TRIM
POL
HPF
GATE
+4/-10
PEQ
COMP
DELAY
MUTE
DCA
FADER
ASSIGN+PAN
PFL
AFL
IP to MAIN
IP to GRP
IP to AUX/FX
DIRECT OUT
Post
Pre
LEV
TRIM
Stereo ch only
Post-Preamp
Post-Ins A
Post-PEQ
Post-Delay
Source option per Aux mix
Global source option for DIRECT OUT — Follow MUTE – Follow FADER


INSERT
28-band 1/3 octave
GEQ
PEQ
COMP
DELAY
+4/-10
Skt, USB,
I/O Port or RackFX
Sidechain
EXT IN
TRIM POL
MUTE
DCA
FADER
BAL
PFL
AFL
Mix Output
GRP to MAIN
GRP to AUX/MTX
AUX/MAIN to MTX
Post
Pre
LEV
MIX MASTER (GRP, AUX, MAIN)
12 Mono / Stereo mixes (configurable Aux or Group) + LR


EXT IN
MATRIX MASTER
TRIM POL
INSERT
Skt, I/O Port or RackFX
Sidechain
GEQ
PEQ
COMP
DELAY
+4/-10
28-band 1/3 octave
MUTE
DCA
FADER
PFL
AFL
MTX Output


TALKBACK
Assign to: GRP
AUX
MAIN
MATRIX
HPF
Press to TALK
SIG GEN
To: GRP
AUX
MAIN
MATRIX
Sine (Sweep 20-20kHz)
White Noise
Pink Noise
Bandpass Noise (Sweep)
MUTE
LEV


FX SEND
Strip METER
PFL
AFL
MUTE
FADER
RackFX x8
Send > Return FX
Inserted FX
PEQ
From:
FX Send
or
Any MIX
Input DIR OUT
FX RETURN x8
METER
MUTE
FADER
ASSIGN+PAN
PFL
AFL
in-place
Ret to MAIN
Ret to GRP
DCA
Post
Pre
LEV
Ret to AUX/FX


PFL/AFL MONITOR
DELAY
RTA
31-band 1/3 octave
AFL not affected by Trim
-24dB
0dB
PFL TRIM

17. 仕様

Mic/Line Inputs	Balanced XLR, fully recallable
Input Sensitivity	-60 to +0dBu
Switchable Pad	-20dB
Analogue Gain	0dB to +60dB, 1dB steps
Maximum Input Level	+30dBu
Input Impedance	>5kΩ
THD+N, Unity gain 0dB	0.002% -92dBu (20Hz-20kHz, AES Direct Out, @0dBu 1kHz)
THD+N, Mid gain +30dB	0.003% -91dBu (20Hz-20kHz, AES Direct Out, @-30dBu INPUT 1kHz)
Phantom Power	+48V (+3V / -2V)
Stereo Line Inputs	
ST1, ST2 connectors	Balanced, 1/4" TRS jack
ST3 connector	Unbalanced, stereo 3.5mm Mini Jack
Input Sensitivity (ST1, ST2 / ST3)	Nominal +4dBu ST1, ST2 / 0dBu ST3
Trim	+/-24dB
Maximum Input Level (ST1, ST2 / ST3)	+22dBu / +18dBu
Input Impedance	>7kΩ

Outputs 1-12 (SQ-5) and 1-14 (SQ-6)	Balanced, XLR
Outputs A and B	Balanced 1/4" TRS Jack
Source	Patchable
Output Impedance	<75Ω
Nominal Output	+4dBu = 0dB meter reading
Maximum Output Level	+22dBu
Residual Output Noise	-90dBu (muted, 20Hz-20kHz)

AES Digital Output	Balanced XLR 2 channel,
	96kHz sampling rate (Default with SRC Bypassed)
	Switchable output sample rates,44.1kHz/ 48kHz/ 88.2kHz/ (96kHz)
	2.5Vpp balanced terminated 110Ω

SLink Connection	Neutrik EtherCON (RJ45)
dSnake mode (48kHz devices)	64 channels assignable, compatible with AR2412, AR84, AB168, ME
dx mode (96kHz devices)	32 channels assignable, compatible with DX168
gigaACE (96kHz devices)	128 channels assignable, compatible with dLive and SQ
Inputs	Fully Patchable
Outputs	Fully Patchable
Sync/SRC	assignable as master audio sync for all modes, SRC 64 channel

I/O Port	Multi-channel IO option module
Inputs	Fully Patchable
Outputs	Fully Patchable
Sync/SRC	assignable as master audio sync

System	Measured balanced XLR in to XLR out, 0dB gain, 0dBu input
Dynamic Range	112 dB
Frequency Response	+0/-0.5dB 20Hz to 20kHz
Headroom	+18dB
Internal operating Level	0dBu
THD+N, Mic/Line routed to Main L/R Out	Unity gain faders@0dB, 0.006%, -84dBu (20 - 20kHz)
dBFS Alignment	+18dBu = 0dBFS (+22dBu at XLR output)
Meter Calibration	0dB meter = -18dBFS (+4dBu at XLR out)
Main Meter Type	2 x 12 segment, fast (peak) response
Channel Meter Type	Chromatic Channel Metering, fully programmable colour/brightness
Peak Indication	-3dBFS (+19dBu at XLR out), multi-point sensing
Sampling Rate	96kHz
Bit Depth	Uses XCVI core custom bit widths in algorithms, up to 96bits
Latency	<0.7mS, Local Mic Input routed to Main L/R. (Direct, No EQ/ Effects)

Operating Temperature Range	0 deg C to 40 deg C (32 deg F to 104 deg F)
Mains Power	100-240V AC, 50/60Hz
Max Power Consumption SQ-5/SQ-6	75W / 90W

Input Processing	
Source	
CH1-48	Fully patchable
USB Global Source	SQ-Drive or USB-B Streaming
Polarity	Normal/Invert
Trim	-24 to +24dB
High Pass Filter	12dB/octave 20Hz – 2kHz
Insert (Pre EQ/Comp)	Fully Patchable
Delay	Up to 341ms
Gate	Patchable Sidechain
Sidechain filter	Hi-pass (20-5k), Band-pass (120-10k), Lo-pass (120-20k)
Threshold / Depth	-72dBu to +18dBu / 0 to 60dB
Attack / Hold / Release	50µs to 300ms / 10ms to 5s / 10ms to 1s
PEQ	4-Band fully parametric, 20-20kHz, +/-15dB
Band 1, Band 4	Selectable Shelving (Baxandall), Bell
Band 2, Band 3	Bell
Bell Width	Variable Q, 1.5 to 1/9th octave
Compressor	Patchable Sidechain
Sidechain filter	Hi-pass (20-5k), band-pass (120-10k), Lo-pass (120-20k), Q=1
Threshold / Ratio	-46dBu to 18dBu / 1:1 to infinity
Attack / Release	30µs to 300ms / 50ms to 2s
Knee	Soft/Hard
Detector response	Peak/RMS switchable
Parallel Path Compression	dry/wet -inf to 0dB
Channel Direct Out	Follow Fader, Mute, Mute Group, DCA (global all ch)
Source select	Post-Preamp, Post-HPF, Post-Gate, Insert Return, Post-PEQ, Post-Comp, Post-Delay
	trim -inf to 10dB per channel

Mix Processing	
Insert (Pre EQ/Comp)	Fully Patchable
Delay	Up to 682ms
GEQ	28 bands 31Hz-16kHz, +/-12dB Gain, Constant 1/3 oct
PEQ	As Input PEQ
Compressor	As Input Compressor

FX	
Internal FX	8 x RackExtra FX engine, Send>Return or Inserted (4 dedicated FX bus)
Types	SMR Reverb, Gated Reverb, Stereo Tap Delay, ADT, Symphonic Chorus, Flanger
8 dedicated Stereo FX returns	Fader, Pan, Mute, Routing to Mix/LR, 4-Band PEQ

Audio Tools	
PAFL	PFL or stereo in-place AFL, 0 to -24dB Trim, PAFL Delay Up to 682ms
Talkback	Dedicated input, Assignable to any mix, Gain, Pad, 48V, 12dB/oct HPF
Signal Generator	Assignable to any mix, Sine/White/Pink/Bandpass Noise
RTA	31-Bands 1/3 octave 20-20kHz, follows PAFL source

USB Audio	
SQ-Drive	USB A
Stereo Record	2 channel, WAV, 96kHz, 24-bit, source fully patchable
Stereo Playback	1/2 channel, WAV, 44.1, 48, 96kHz 16, 24-bit, fully patchable
Multitrack Record	16 channel, WAV, 96kHz, 24-bit, track sources fully patchable
Multitrack Playback	16 channel, WAV, 96kHz, 24-bit fully patchable
USB Audio Streaming	USB B, Core Audio compliant, ASIO/WDM for Windows
Send (upstream)	32 channel, 96kHz, 24-bit
Return (downstream)	32 channel, 96kHz, 24-bit

Size and Weight	
SQ-5	Width x Depth x Height
Desk mounted	440 x 514.9 x 198 mm (17.3" x 20.3" x 7.8")
Packed in shipping box	610 x 680 x 360 mm (24" x 26.8" x 14.2")
Unpacked weight	10.5 kg (23.1 lbs)
Packed weight	14 kg (30.9 lbs)

SQ-6	Width x Depth x Height
Desk mounted	638 x 514.9 x 198 mm (25.1" x 20.3" x 7.8")
Packed in shipping box	820 x 680 x 360 mm (32.3" x 26.8" x 14.2")
Unpacked weight	13.3 kg (29.3 lbs)
Packed weight	17.3 kg (38.1 lbs)

18. 保証について

メーカー保証期間は1年間とします 。

Allen & Heath は、材料および製造上の欠陥に対して、オリジナルパッケージ（Allen & Heath 製品）に含まれるAllen & Heath - ブランドのハードウェア製品および付属品を、Allen & Heath のユーザーマニュアル、技術仕様およびその他のAllen & Heath 製品に従って使用された場合、エンドユーザーである購入者（「保証期間」）によって、最初の購入日から1 年間の期間を定めガイドラインを公表しました。

パッケージ化されAllen & Heath ハードウェアと共に販売された場合でも、この保証は任意Allen & Heath ブランドのハードウェア製品または任意のソフトウェアには適用されません。

ソフトウェア（以下「EULA」）の使用に関して、あなたの権利の詳細については、ソフトウェアに付随する使用許諾契約書を参照してください。

EULA、保証ポリシーおよびその他の有用な情報の詳細については、ALLEN&HEATH のウェブサイト上で見ることができます:
www.allen-heath.com/legal

証期間下での修理・交換は、保証期間の延長または更新の権利は提供されません。この保証期間の下での製品の修理または直接交換は、機能的に同等のサービス交換ユニットで行われるかもしれません 。

この保証は譲渡することができません。この保証は、購入者の唯一かつ独占的な賠償となり、Allen & Heath もその承認されたサービスセンターのいずれも、いかなる偶発的または間接的損害、またはこの製品のいかなる明示的または黙示的な保証の違反に対する責任を負うものではありません。

保証条件

機器は、意図または偶発的な不正使用、不履行、またはユーザーガイドやサービスマニュアルに記載されている内容、またはAllen & Heathにより承認された内容以外の変更を対象としていません。

任意の必要な調整、変更、修理は、認可されたAllen&Heath の販売代理店または代理人によって行われます。欠陥のあるユニットは、購入証明書で認可されたAllen&Heath 代理店またはエージェントに運賃前払いで購入場所に返却されます。出荷前に販売代理店またはエージェントと話し合ってください。返却されるユニットは、輸送の損傷を避けるために、オリジナルのカートンに梱包する必要があります。

免責事項：Allen & Heath はどちらか修理または交換されている製品のいずれかの保存/ 保存されたデータの損失に対する責任を負いません。

追加の保証については、お使いのAllen & Heath 販売代理店またはエージェントにお問い合せください。さらなる情報が必要な場合はAllen & Heath 社にお問い合わせください。

Allen & Heath により承認されない機器の変更や修正は、製品のコンプライアンスとそれを操作するためのユーザーの権限が無効になることがあります。

SQ Reference Guide, Firmware V1.0.1, issue 1.
Copyright © 2017 Allen & Heath. All rights reserved.

ALLEN&HEATH

Allen & Heath Limited, Kernick Industrial Estate, Penryn, Cornwall, TR10 9LU, UK
www.allen-heath.com

ArtWiz
株式会社アートウィズ　〒162-0041　東京都新宿区早稲田鶴巻町 511　Tel : 03-3202-2330
〒409-3845　山梨県中央市山之神流通団地 3-3-4　Tel : 055-274-4004